

台湾情報誌

# 交流

2015年5月 *vol.890*

公益財団法人 交流協会  
Interchange Association, Japan



松山～松山つながりから始まった  
台湾との経済交流

# 交流

2015年5月  
vol. 890

## 目次

CONTENTS

松山～松山つながりから始まった台湾との経済交流 ……………	1
(向井陽子)	
【台湾海峡をめぐる動向(2015年1月～4月)】	
民間航路新設で譲歩した中国、台湾のAIIB参加表明では譲歩せず…	6
(松本充豊)	
【台湾内政と日台関係をめぐる動向(2015年3月上旬～5月上旬)】	
次期総統選挙と日本食品産地偽装問題 ……………	15
(石原忠浩)	
日台青年交流事業“ウィンターキャンプ” ……………	22
コラム ……………	32

※本誌に掲載されている記事などの内容や意見は、外部原稿を含め、執筆者個人に属し、公益財団法人交流協会の公式意見を示すものではありません。

※本誌は、利用者の判断・責任においてご利用ください。

万が一、本誌に基づく情報で不利益等の問題が生じた場合、公益財団法人交流協会は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

### ● ● 交流協会について ● ●

公益財団法人交流協会は外交関係のない日本と台湾との間で、非政府間の実務関係として維持するために、1972年に設立された法人であり、邦人保護や査証発給関連業務を含め、日台間の人的、経済的、文化的な交流維持発展のために積極的に活動しています。

東京本部の他に台北と高雄に事務所を有し、財源も太宗を国が支え、職員も多くも国等からの出向者が勤めています。

# 松山～松山つながりから始まった台湾との経済交流

松山市産業経済部地域経済課

主任 向井 陽子

## 1. 台湾と松山市の交流の経緯

松山市は、台北市に松山区、松山空港、松山駅など漢字で同じ「松山」の名称を持つこと、さらには、松山市に道後温泉、台北市に北投温泉という、ともに最古といわれる温泉を有することを縁として、2009年から観光を中心に交流を深めてきました。2011年11月には道後温泉旅館協同組合（道後温泉）と台北市温泉発展協会（北投温泉）の交流協定締結、2012年3月には台湾のテレビドラマ「アリスへの奇蹟」の松山ロケの実施、2013年10月には台北・松山空港と愛媛・松山空港を結ぶ、いわゆる「夢の懸け橋 直行チャーター便」の運航などを経て、2014年には台北市と友好交流協定を締結するに至りました。

そこで得た台湾とのチャンネルや信頼関係を土台に、観光はもとより文化、スポーツ、教育、経済などさまざまな分野においても交流を広げることとなりました。

## 2. 台湾との経済交流を行うメリット

観光を中心に始まった交流ですが、その経緯を除いても、台湾と経済分野で交流する理由として3点あります。

1つ目は台湾の方の親日性、2つ目は台湾が持つ中国や東南アジアへの人脈やネットワーク、そして最後に台湾の方の明るく前向きな思考と親切的な気質です。

松山市内企業の99%は中小企業が占めます。今後、日本国内の人口減少によるマーケット縮小、

グローバル化における競争激化が想定される中で、市内企業が拡大していくためには海外市場を視野に入れていくことは大切です。しかし、経験がない中小企業にとって、海外進出は言葉の壁や商習慣の違いなどの面でリスクが高いと感じ、海外でのビジネスへの憧れや希望があっても、取り組むことに尻込みされる市内企業がありました。

しかし、台湾の方は、日本人の気質や特徴、習慣を理解しようとされるうえに、お会いすると心から温かく日本人を歓迎してくださるので、信頼関係をいち早く築くことが可能です。市内企業が台湾での企業訪問や商談を経験した後、海外でのビジネスに可能性を感じ、積極的になった場面を何度か目にしました。

また、台湾企業は、中国大陸に広い人脈を持ち、中国でのビジネスや商習慣に精通し、東南アジアへの展開も積極的です。さらに、台湾政府は中国と自由貿易協定（FTA）を締結していますので、台湾企業と組んで中国でのビジネス展開を目標にすることは、リスク軽減の観点から市内企業にとって大きなメリットとなり、グローバル展開への道筋が非常に明確となります。

そして、台湾の方はとても前向きでお世話好きです。こちらが何をしたいか目的をはっきり伝えると、自分が持っている人脈やネットワークを引っ張りだして、「あの会社を紹介しようか」「こういう展開をやってはどうか」とあれこれ方法を考えてくれます。市内企業にとっては、海外でのビジネスの可能性を感じ、モチベーションを高めるひとつのきっかけとなっています。

### 3. 松山市方式

松山市が台湾との経済交流を事業として行うにあたって、目標をアウトバウンドとインバウンド双方向に置きました。アウトバウンドの目標は、市内企業が台湾、台湾を通じて中国や東南アジアへの販路拡大や事業所進出をすること、インバウンドの目標は、二次産業・三次産業を対象とし、台湾企業が松山市から日本進出すること、としました。

いざ台湾と松山の企業間の交流を進めるにあたって、台湾企業とどのように知り合い、つながりを維持し、具体的なビジネスの話につなげていくかが大切なポイントでした。私は、地域経済課の担当として市内企業のことは知っていることがあるものの、台湾企業といったら acer か giant か、といった状態でした。どの機関を寄り処とするのか試行錯誤する中で、地方企業のビジネスマッチングをミッションに掲げる台日産業連携推進オフィス（以下、TJPO）に出会うことができました。

TJPO を窓口にして、相互に企業を紹介し合い、台湾でのビジネスに関心を持つ市内企業とともに訪台し台湾でビジネスマッチングを行う活動を始めました。一方、台湾の飲食事業者や食料品加工会社などを訪問し、松山市への進出を提案したり、市内企業と交流の機会を設けたりしています。

### 4. 経済交流の実際

このような流れの中で、今回は 2015 年 2 月 1 日～8 日の日程で訪台しました。産業経済部職員 4 名に加え、市内企業 3 社が一緒です。3 社の事業内容は、ゲームアプリ開発、イチゴと農業資材、衛生商品と 3 社三様です。

2 日～4 日は 3 チームに分かれ、各企業のニーズに合わせた関係団体や企業の訪問を行いました。5 日～7 日は松山市への出店を提案するた

め、台湾の飲食事業者を訪問しました。訪問する台湾企業の選出やアポイントの設定は、TJPO が行いました。

#### (1) 2 日～4 日（アウトバウンド）

私は、垣本商事株式会社（固有名詞の記載については了承済み。以下、垣本商事。）の訪問に同行しました。

垣本商事は、県の研究所が行っていることが多いイチゴの品種開発を民間独自で行っていて、一番の売りの品種は 7～8 cm はあるかという大玉のイチゴです。それ以外にも約 100 品種の苗を開発し、また、炭疽病というイチゴ独自の病気のリスクを軽減する栽培システムなどを製造しています。今回の訪台にあたって垣本商事の目的は、(1) 独自に開発・生産したイチゴの台湾のデパートなどでの輸出・販売、(2) イチゴの苗のライセンス販売、(3) 栽培システムの現地生産を行う合弁会社の設立、この 3 つの可能性を探ることです。

訪問先は、野菜や果物の卸売業者、美國国際・新光三越といったデパートのスーパー部、イチゴの一大生産地である苗栗県の農会（農家の組合のようなもの）や農業試験場といったところです。

まず、デパートに行き驚いたのは、日本産イチゴでは福岡の「とよのか」が台湾でのシェアを大きく占めていることでした。聞けば、県と市を挙げて台湾市場に売り込んだ経緯があったようです。デパートの方の話では、台湾の消費者は、「と



苗栗県の農会での垣本商事のプレゼン風景

よのか」「さちのか」といったブランド名にはあまり関心がなく、「福岡」「熊本」といった産地で選ぶとのこと。その中で、台湾のマーケットに加わるためには、台湾の人に良く知られている「福岡」の品種と異なる特徴やクオリティを、ストーリー立てて説明する必要があるといったアドバイスをいただきました。

また、台湾のイチゴの生産面積 90% を占めるといわれる苗栗県の訪問では、約 20 人の農家の方が集まってくださり、活発な意見交換が行われました。農家の方は、「新しい品種の苗を欲しい!」とおっしゃり、「どうやったら手に入るんだ?」と興味津々でした。



台湾のイチゴ農園

次に、イチゴビールを開発している企業や育苗を行っている企業に会うために、企業が持つイチゴ農園を訪問しました。垣本商事の訪台目的を聞いた薫理事長が、「そのような話がしたいのだったら〇〇という会社が一番適している。来週、その社長に会うから話しておく。その会社を連れて松山に視察に行くことも検討する。」と、冒頭に述べた台湾の方のホスピタリティで次々とアイデアを出してくださり、畑で立ち話をする事 1 時間半! 垣本商事も台湾でのビジネスに可能性を感じ始めました。

苗栗県には、イチゴ狩りができる観光農園がたくさんあり、TJPO のスタッフがイチゴ料理のレストランに連れて行ってくれました。イチゴジュースだけでなく、鳥の唐揚げのイチゴ餡かけソースなど日本ではなかなか出会わないお料理を



イチゴジュースと鳥の唐揚げのイチゴ餡かけソース



イチゴの産地・苗栗県の観光施設

初体験です。苗栗 = イチゴが印象付けられた時間となりました。

その後、松山に戻った垣本商事は出会った企業と熱心に商談を続けられ、デパートとの取り引きが実現に近づいていることと、5 月にはイチゴ農園で出会った企業が、約束通り、紹介するとおっしゃった企業とともに垣本商事を訪問する予定であるという嬉しい報告を頂戴しています。

## (2) 5 日～8 日 (インバウンド)

さあ、今度はインバウンドの営業活動です。今回の訪問先は、お酢の老舗、台湾の火鍋の具材としてポピュラーな練り物の製造会社、テイクアウト



大安工研 訪問

トドリンクのチェーン店など5社でした。

最初に訪問したお酢のメーカー、「大安工研」の董事長は、若い時に日本に留学され、日本企業でも働かれた経験をお持ちです。現在、お酢だけでなく、味噌や納豆のほかS&B社の委託製造を手がけるなど、日本との関わりがとても深い企業でした。董事長は温かな歓迎とともに日本語で会社を御紹介下さいました。

次に、練り物を製造している「耀集食品」では、女性の董事長が御対応下さいました。台湾にも日本にも鍋料理があり、練り物も食べますが、台湾ではバリエーションが豊富なのが特徴です。耀集食品では、120種類もの練り物を製造していました。董事長のお話を聞いていると、御主人様を早くに亡くされたのことで、御主人が亡くなられた当時は小さかった工場を守ろうと頑張られ、レストランや観光工場、台湾全土に営業所を持つまでに大きくされたお話に感銘を受けました。大安工研、耀集食品はともに、日本市場に強い関心をお



耀集食品 訪問

持ちでしたが、自分たちが作る味が日本人の口に合うかを心配されていたことが強く印象に残っています。日本での市場テストができれば喜ばれるのだらうと感じました。

もう一つご紹介する企業は、タピオカミルクティが有名なテイクアウトドリンクチェーン店「50嵐」を経営する深耕茶業です。耀集食品と深耕茶業は、ともにビジネスのお話で日本と交流するのが初めてで、初めはとても緊張していらっしゃいましたが、熱心かつ丁寧に会社概要を御説明下さり、人件費、テナント料、交通の便、関税、原材料確保の問題など具体的なディスカッションをして下さったことが印象的でした。そして、松山市への視察を検討いただくこととなりました。

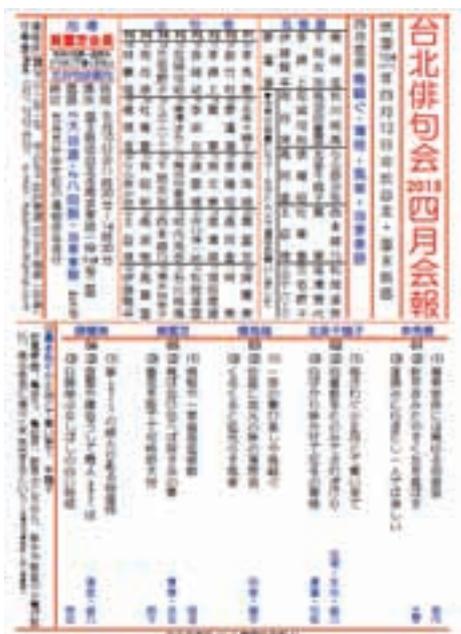
### (3) その他（台北市俳句会への訪問）

アウトバウンド、インバウンドそれぞれの用務を終え、日本に帰る前に訪れたのは「台北俳句会」でした。台湾の投資を呼び込む松山市の取り組みに着目して下さった対日貿易投資交流促進協会（ミプロ）の御担当者が紹介して下さいました。

松山市は、正岡子規や高浜虚子など多くの文人や俳人を輩出するとともに、夏目漱石の「坊っちゃん」や司馬遼太郎の「坂の上の雲」など小説の舞台のひとつにもなるなど、文化的土壌の豊かな街です。これを生かして、文化の振興や地域の活性化、まちのPRにつなげる「ことばのちから」によるまちづくりを展開しており、今年で開催18回目を迎える



深耕茶業と TJPO オフィスで交流



台北俳句会の会報

「俳句甲子園」や、新しい青春文学の創造を目指し創設した「坊っちゃん文学賞」など「ことば」をテーマにした事業展開を数多く行っています。

台北市にも俳句会があるということで訪問させていただきました。会長の黄靈芝先生は、当日はお会いできなかったものの、松山に来られたこともあるとのこと。兵隊として関西から台湾に来て、そのまま台湾で人生を過ごしている方、日本人学校に赴任してこられた若い先生など、台湾と日本の懸け橋となられている方にたくさんお会いし、台湾と日本の絆をさらに感じた時間となりました。「ことば」つながりにおいても、台湾と松山市で交流が発展していくことを願いました。

## 5. おわりに

これらの訪台を通して、新たな交流の可能性をたくさん頂戴しました。受け取った機会を大切に、台湾と松山の企業が繋がりをもち続け、共に

発展することができるよう、行政としてできる支援を精一杯していこうと考えています。

さて最後に、今回の訪台を含め、私見ながら台湾経済交流を担当して感じていることを書かせていただきます。

1点目は、台湾と日本のビジネスに対する考え方や感覚の違いです。台湾企業は、まず初めに、何が目的なのかを考え、そのためには何をしたら良いか方法論を考える、演繹的かつ合理的にビジネスモデルを考えます。一方、日本企業は、まず交流を深め、じっくり信頼関係を築いたうえで一緒にできることを探す帰納的な考え方をする傾向にあると感じています。その考え方の切り口やペースの違いから、台湾企業が、日本企業の説明を聞いていて、何が目的で訪問したのか分からずにもどかしい思いをしていたのに、目的がはっきり分かると、表情が明るくなって話が弾むといった機会を何度か目にしました。

2点目は、そのような文化の違いの中で経済交流を担当する行政の役割です。文化や習慣の違いは、どちらも尊重されるべきですから、両者の考え方や感覚の違いを上手に仲介していく必要があると感じています。特に、地方の中小企業は、台湾の方に会うのも初めてでとまどうことも多々あります。台湾、日本、それぞれの企業が商談ペースの違いや関心を持ちやすいポイントなどを事前に知る・学ぶ機会を提供することは、スムーズな経済交流につながるのではと感じています。

以上が、今回の私の訪台記です。台湾と松山市が、今後も互いに尊敬するパートナーとして信頼関係を深め、ともに発展していくことを心から願って終えることとします。

## 台湾海峡をめぐる動向 (2015年1月～4月)

# 民間航路新設で譲歩した中国、台湾の AIIB 参加表明では譲歩せず

松本充豊 (京都女子大学教授)

### 1. 馬英九總統の元旦祝辞

馬英九總統は2015年1月1日、建国記念日と新年を祝う式典に出席し、恒例の元旦祝辞を述べた。今年の祝辞は「和解、協力、平和」がテーマだった。

中台関係については、第3番目の「平和」に関する部分にあたる「兩岸の平和」で言及された。馬總統は、「台湾社会には和解が必要であり、兩岸の平和も強固なものにしなければならない」と訴え、「兩岸関係の推進にあたり最も重要な目標は、第1に平和、第2にも平和、第3にもやはり平和である」と強調した。そして、中華民国憲法の枠組みの下で「統一しない、独立しない、武力行使しない」とする現状維持と、「92年コンセンサス、その解釈は各自が表明する」を基礎に、「台湾を第一とし、人民に有利であること」という原則を堅持して、兩岸関係の更なる平和的発展を進めることを確認した。

さらに、馬總統は「兩岸の平和発展がもたらす利益、とりわけ経済面の利益は、全国民が分かち合うべきもので、特に企業の中で絶対多数を占める中小企業が得られるようにすべきであり、これは多くの国民の共通の期待である」と述べた。また、中台間の若者の交流にも言及している。「兩岸の永遠の平和が兩岸の人々、ひいては国際社会の共通の願いである以上、兩岸の若者が人生の比較的早い段階から相互交流をスタートさせ、交流を通じて誤解をなくし、友好関係を確立することは平和を促進する最も効果的な道である。それは私の長年の主張でもあり、我々はこれを引き続き推進していく」と訴えた。

最後に、馬總統は「台湾を絶対に空転させない」として、今年が社会の和解の実現、与野党の協力、兩岸の平和の一年となるようにすることを誓い、祝辞を終えた。

### 2. 中国が中間線付近に民間航路を設定、公表

#### (1) 台湾、「一方的な設定」と反発

中国は1月12日午前、台湾海峡の中間線付近に4本の新たな民間航路を設定すると公表した。台湾の交通部(国土交通省に相当)は13日、中国側がこれらの航路を一方的に設定し、突然公表したとして、「受け入れられない」とする抗議を表明した。

中国が公表した新たな航路は、中間線付近の西側に、台湾海峡を南北に縦断する航路1本(M503)、および同航路から浙江省の東山、福建省の福州、厦門を東西に結ぶ航路3本(それぞれW121、W122、W123)である。台湾海峡では、1950年代に米軍が台湾防衛のために設定した「海峡中間線」が、現在も中台間の事実上の境界線(すなわち中間線)となっている。国際民間航空機関(ICAO)が定める航空情報区(FIR)については、中間線の中国側を上海、台湾側を台北の管制部門がそれぞれ管轄している。中国東南部沿岸を発着する中国の民間航路は現在、大陸上空に設定されているが、近年中国の経済発展に伴い便数が増加して過密状態にあるとされる。中国側はそうした航路の過密化を理由に、台湾海峡上空に新設した航路を3月5日から運用すると発表した。

他方、台湾側にとっては、中間線はFIRの境界だけでなく、台湾の防空識別圏(ADIZ)の境界で

もある。国籍が不明な航空機がこのラインを越えた場合には、台湾の空軍が緊急発進して対応することになる。台湾海峡を縦断する航路は国際線にも利用されているが、中間線に最も接近する部分では、その距離はわずか4.2カイリ（約7.8キロ）で、その付近の台湾側には台湾空軍の演習空域が設定されている。また、東西に結ぶ3本の航路は台湾本島と金門島や馬祖島を結ぶ台湾側の既存航路と接近しており、航空機が天候の悪化など異常な状況に遭遇した場合には飛行の安全が脅かされることが懸念される。

台湾側は、中国側が事前に台湾側の上記の4つの航路を一方的に設定し、発表したことに強く反発した。台湾の交通部民用航空局（民航局）によると、中台間では昨年からの台湾海峡を縦断する航路について、関係当局間で非公式に協議してきたが合意には至っておらず、また東西を結ぶ航路については協議の対象にもなっていないという。さらに、中国側のそうした姿勢は「ICAOの精神に反する」とも主張している。ICAOは、ある国が新たに航路を設定しようとする航路が近隣国と近い場合には、その国に近隣国との協議を求めている。しかし、「一つの中国」原則を掲げる中国にとっては、台湾（台北の管制部門）が管轄するFIRも「国内」であるため、今回の航路の新設も一方的に通知したとの見方も報じられた。

## （2）立法院も声明を発表

立法院では1月16日、与野党会派が政府（行政院）に対して、上述の航路設定への適切な対応を求める共同声明を発表した。この声明では、台湾の政府との協議に早急に応じるよう中国側に直ちに要求すること、また同時に、中国側が節制し、台湾海峡の現状を一方的に変更することを回避し、協議やあらゆる可能な行動により速やかにこの争議を解決し、中台間が平和的かつ安定的な発

展関係を維持していくよう中国側に呼びかけること、を行政院に求めた。

これを受けて、交通部は「台湾の政府は各種のチャンネルを通じて、台湾はこれを受け入れられないという厳正な立場をすでに表明しており、飛行の安全の確保という前提の下で、早急に中国との協議を行っていく」と表明した。また、交通部は、行政院大陸委員会（陸委会）、外交部と合同で、各種ルートを通じて関係各方面に対して台湾の立場を表明していく考えを示した。

## （3）中台間で基本合意

台湾・交通部は3月2日、中国が新たに設定した民間航路問題について、中台双方が基本合意したと発表した。中台が合意した内容は、①台湾海峡を南北に縦断し、中間線に沿って飛行する航路（M503）については、中国側（西側）に6カイリ（約11キロ）移動させ、北から南への一方通行とすること、②この航路の運用開始時期も延期し、中台双方の協議により確定すること、③この航路と浙江省の東山、福建省の福州、厦門を東西に結ぶ3本の航路（W121、W122、W123）は当面運用せず、運用する際には改めて協議すること、である。中国が台湾に対して一定の譲歩を示した格好となった。航路が西側に移動したことで、中間線に最も接近する部分の距離も10.2カイリ（約19キロ）に広がった。

同日、陸委会がこの航路問題に関する参考資料を発表した。この中では、これまでの経緯について、「中国が設定したM503などの航路の対応について、台湾政府は極めて重視しており、馬英九総統は自ら国家安全会議を何度も招集し、行政院では官庁の枠を超えて合同で対応を検討した。2か月あまりにわたり、中台間は民間航空の主管機関による協議を通じて、台湾の權益確保を優先し、積極的に調整に努めた。その後、中国は前向きな対応を示し、具体的な調整措置を提起し」と説

明されている。

この航路問題は、2月初旬に金門島で予定されていた中台閣僚会談が延期（後述）された一因でもあった。台湾側が閣僚会談の延期も辞さないとする強い姿勢を示してから、中国側の対応に変化が見られたとする国家安全会議高官の話を伝えた台湾メディアもあった。閣僚会談の延期直後、台湾・行政院大陸委員会（陸委会）では王郁琦主任委員が辞任、後任には夏立言氏が就任した（後述）。夏立言主任委員は3月3日、中国側との航路問題に関する協議の結果について「不満だが、しぶしぶ受け入れた」と述べて、中国・國務院台湾事務弁公室（国台弁）の張志軍主任と閣僚会談については、「問題はまだすべて解決していない」として、中台間の今後の状況を見極めてから決めると述べた。

#### （4）M503 航路の運用開始

中国は、3月15日午前11時より、M503航路を使用した試験飛行を実施した。陸委会は、この試験飛行は中国側が事前に台湾側に通知し、台湾側が同意した上で実施されたもので、その全行程を監視していたことを明らかにした。交通部民航局も事前に情報を掌握して関係機関に通報し、国防部も現行の領空範囲内で任務を行っていたという。

その後、中台間での協議の結果、M503航路は3月29日から運用開始されることが決まった。交通部民航局は3月10日、M503航路の運用開始後には、当初は1日あたり30便を越えない飛行回数を維持し、その後は増えていくことになるとの見通しを示していた。中国・新華社の報道によると、運用初日となった29日は、午前7時半に香港に向けて上海を飛び立ったドラゴンエア機をはじめ合計33便が同航路を飛行した。

陸委会の高官は同日、「同路線は安全保障上も、飛行の安全上も問題はなく、国際空域であるため

主権にもかかわらない」と述べた上で、陸委会は「今後運用状況を厳しく監視し、中国側が合意に反した場合は、すぐに協議を行う」と強調した。

### 3. 朱立倫氏、国民党主席選挙で当選

1月17日、中国国民党（以下、国民党）では馬英九前主席の辞任に伴う党主席選挙が行われ、新北市長の朱立倫氏が当選した。立候補は朱氏のみで事実上の信任投票となったが、得票率は党員直接投票制度導入後最高となる99.61%だった。朱氏は19日に正式に党主席に就任した。

朱氏の当選に際し、中国共産党（共産党）の習近平総書記からの祝電が寄せられた。祝電には、祝辞のほか、「両党が民族の大義を保持し、『92年コンセンサス』を堅持し、『台独』に反対するという共通の政治的基礎を強固なものにし、交流を強化し、相互信頼を増進させ、兩岸関係の平和的發展を引き続き前進させ、兩岸の民衆に幸福をもたらし、民族復興の偉業をともに成し遂げることを望んでいる」とのメッセージが添えられていた。

同日、朱氏は習総書記への返電を送った。朱氏はその中で、謝辞に加えて、「両党は過去6年来、『92年コンセンサス』の基礎の下で、各レベルでの交流・協力を積極的に推進し、兩岸の平和的發展にとって新たな歴史的局面を切り拓いた。また、両党の間では良性的な相互作用のモデルが形成され、相互信頼の基礎が築かれた」、「両党が兩岸関係の未来の発展において、引き続き交流を拡大し、互いに利益を得るウィンウィンの関係を創り出し、兩岸の永遠の平和と繁栄を促すことを期待している」と述べた。

### 4. 「2015年対台工作会議」の開催

中国では2015年の共産党「対台工作会議」が1月26日からの2日間、北京で開催された。この

会議は年に1回行なわれ、対台湾政策関係部門が1年間の活動を総括し、今後1年間の新たな活動方針を決める重要な会議である。

今年の会議では、中央対台領導小組副組長を務める人民政治協商会議の俞正声主席（中共中央政治局常務委員）が講話を行い、対台湾工作担当の楊潔篪国務委員が会議を主宰し、国台弁の張志軍主任が活動報告を行なった。また、習近平総書記の懐刀とされる中共中央弁公室庁の栗戰書主任や国務院の王洋副総理（経済担当）も参加したことは、台湾との経済協力や経済交流をさらに重視しようとする中国側の姿勢を示すものともいえよう。

会議では、これまでの「兩岸関係の平和的發展」路線を踏襲することが明確に示された。俞氏はその講話の中で「台湾に対する国家の政治方針は不変である」と強調した。そして、①「92年コンセンサス」と「台独」反対を政治的基礎として、兩岸の政治的相互信頼を増進し、良性な相互作用を保持しながら兩岸の平和的發展の制度化の成果を確かなものにする、②「兩岸経済協力枠組み協定（ECFA）」の後続協定に関する制度化された協議を積極的に推進し、協定実施の効果を拡大し、その恩恵を多くの民衆に及ぼすこと、③兩岸の経済融合の発展を推進し、金融協力を拡大させ、台湾中小企業、農民、漁民の参加と彼らに受益をもたらすのに努めること、などの方針が決まった。「三中一青」（中小企業、中南部住民、中低所得層と青少年）重視する方針が改めて示されたものの、さほど目新しい内容ではない。昨年11月の台湾統一地方選挙での国民党惨敗という結果を受けても、中国が既定の政策路線の「正しさ」を再確認する会議となった。

## 5. 兩岸経済合作委員会第7回定例会合の開催

兩岸経済合作委員会（「経合会」）の第7回定例

会合が1月29日、台北で開催された。経合会は、ECFAの第11条に基づき中国・海峡兩岸関係協会（海協会）と台湾・海峡交流基金会（海基会）との間で設置されたECFAの関連事項を処理するための交渉のプラットフォームおよび対話のメカニズムである。今回の定例会合は、昨年（2014年）8月初旬に開催された前回（『交流』2014年9月号参照）以来、約半年ぶりの開催となった。中国側からは海協会副董事長の鄭立中氏、台湾側からは海基会副董事長の施惠芬氏が召集人を務め、中台双方の経済問題担当の関係者が出席して行われた。

会合では、ECFAのアーリーハーベストの実施成果についての評価が行われた。物品貿易・サービス貿易ともに中台双方に大きな利益をもたらしており、特にサービス貿易では中台双方で利益を受けた企業の半分以上が中小企業であるという。注目されるのは、新たに中小企業による経済協力のための専門グループを設置することに合意したことである。このほかにも、物品貿易協定をめぐる交渉について春節後に協議すること、紛争解決メカニズムに関する交渉の妥結を図ること、電子商取引に関する専門グループの設置を検討することなどで合意した。

## 6. 金門島での中台閣僚会談は延期

中国・国台弁の馬曉光報道官は1月21日、台湾・陸委会との間で、中台閣僚会談を2月上旬に金門島で開催する方向で調整中であることを発表した。今回の会談は、昨年（2014年）2月に中国・南京、同年6月に台湾・桃園で開催された会談に続いて3回目となる。昨年11月、APEC首脳会議後に中国・北京で行われた非公式会談は、ここにはカウントされない。

馬報道官によると、昨年11月の非公式会談では、中国漁船による周辺水域での漁労活動や福建

省沿岸からのごみ漂着問題など金門島の民生問題が話し合われた。今回、こうした問題をさらに議論するために金門島で閣僚会談を開催する計画が浮上したという。同じく1月21日、陸委会の王郁琦主任委員は立法院内政委員会での答弁で、中国が一方的に新たな航線を設定したことに対し、会談では張主任に直接政府の厳正な立場を表明すると答えた。その後、1月28日、陸委会および国台弁は、張主任が王主任委員の招請に応じて、2月7日・8日に金門島を訪問すると発表した。

しかし、開催直前の2月5日、中台双方は同時に閣僚会談の延期を発表した。台湾・陸委会の呉美紅報道官によると、M503など4つの航空路線を中国が一方的に設定した問題で、依然中国側から十分な回答を得られていないことから、陸委会では中台双方がこの問題で合意できないなら、会談を開催しても実質的な意義はないと判断し、前日（2月4日）午前中国側に延期を表明したところ、中国側もこれに同意したという。

中国側が台湾側の同意を得ず、一方的に4つの航路新設を発表したことは、台湾社会から強烈な反発を引き起こし、台湾側は中国側が発表した際に厳正な立場を表明していた。呉報道官は、復興航空機墜落事故以前に、政府は閣僚会談前に中国側との意思疎通を図り合意できなければ、会談を延期する意向であることを中国側にはっきりと伝えたと述べ、その目的は台湾住民の強烈な反発を中国側に理解させるためだったと説明した。

中国・国台弁の馬暎光報道官の説明では、前日の2月4日に発生した台北松山空港発金門行の復興航空機墜落事故で、同機に搭乗していた多数の中国人観光客が死傷し、救援活動の最中であることから、善後処理に全力を注ぐために会談を延期したとされる。馬報道官は、「中台双方で協議の上、張志軍主任の金門訪問延期と、兩岸関係の関連議題でのさらなる意思疎通を図ることで同意した」と語った。

## 7. 陸委会の王郁琦主任委員が辞任

台北地方検察署（台北地検）は2月10日、秘密漏洩容疑で捜査を進めていた前陸委会特任副主任委員の張顯耀氏について、証拠不十分を理由に不起訴処分とした。これを受けて、同日、陸委会の王郁琦主任委員は会見を開き、「検察側の不起訴処分の理由と決定には納得できないが尊重する」と述べ、本件で世間を騒がせた政治的責任を負って辞任する考えを示した。

張氏は対中政策を主管する陸委会のナンバー2として中国との実務交渉では代表を務めていたが、昨年8月に副主任委員の職を更迭されていた。陸委会は「国家の安全を損ねる違法行為に関与した疑いがある」ことを更迭の理由として、法務部調査局に調査を要請したが、張氏はテレビに出演して「自分は潔白である」と訴えて真っ向から反論するなど、陸委会と激しく対立した。その後、台北地検が秘密漏洩の疑いで張氏らの捜査に乗り出していた。

国家安全会議の金溥聰秘書長は11日、「関連報告を読みさえすれば、誰もが恐らく張氏には問題があると感じるだろう」と述べた上で、金秘書長自身が馬英九総統と江宜樞行政院長（当時）に報告し、張氏を異動させ、調査を受けさせることを提案し、馬総統と江院長もそれを支持したと説明した。王主任委員も同日、『聯合報』のインタビューに対して、「たとえ検察側が国家安全にかかわる機密ではないと認定しても、陸委会が公務に関する機密と認定したものだ」と指摘し、台北地検による張氏の不起訴処分を疑問視した。

2月16日、王主任委員の辞任は認められ、後任には国防部の夏立言副部長が就任した。夏氏はオックスフォード大学とロンドン大学の法律学修士号をもつ外交官で、駐ニューヨーク弁事処長、駐米代表処政治組組長、外交部政務次長、駐インドネシア代表などを歴任した人物である。

なお、中国・国台弁の馬暎光報道官は、台湾側の人事異動については論評しないが、人事異動が国台弁と陸委会の間の通常の連絡や意思疎通に影響を及ぼすべきではないとコメントした。

## 8. 中国で「两会」（全人代・政協）開催

### （1）俞主席の活動報告

中国では3月上旬、毎年恒例の全国人民代表大会（全人代）と人民政治協商会議（政協）、いわゆる「两会」が開催された。中国の国会にあたる全人代の第3回全体会議は3月5日から15日までの11日間、国政への助言機関である政協の第12期第3回全体会議は3月3日から13日までの11日間のわたり開催された。

政協の開幕式は、俞正声主席、杜青林副主席をはじめ習近平国家主席や李克強総理らも出席し、2153人の委員が参加して行われた。初日の活動報告では、俞主席がこの1年間の政協の活動を総括し、香港・マカオ・台湾の同胞たちとの大団結、大連合を強化したことを強調した。その上で、今後1年間の活動に触れた部分では、「兩岸関係の平和的発展を全面的に貫徹する」とした上で、政協委員と台湾の議員との相互訪問や交流を進め、台湾の基層の民衆や青少年と団結するための活動を拡大させる方針を示した。

### （2）習総書記の講話

習総書記は3月4日、民革、台盟、台聯の政協委員らによる分科会に出席した。民革、台盟とは「民主党派」である中国国民党革命委員会と台湾民主自治同盟のことで、台聯は同郷会組織である中華全国台湾同胞聯誼会である。今回の「两会」開催は習近平政権の発足以来3回目となるが、習総書記が分科会に参加したのは初めてである。基本的に、最高指導者の出席は珍しい。

習総書記はここでの講話の中で、「兩岸関係の

平和的発展は、兩岸の平和を維持し、共同発展を促進し、兩岸の人民に幸福をもたらす正確な道であり、平和統一につながる光明に満ちた道である」と語り、「我々は動揺することなく平和的発展の道を歩み、共通の政治的基礎を堅持し、兩岸同胞の福祉を図り、手を携えて民族の復興を実現しなければならない」と強調した。これを台湾のメディアは「4つの堅持」と報じた。

習総書記の講話についてはいくつかの特徴を指摘することができる。まずは、短い講話の中で「兩岸関係の平和的発展」という言葉を何度も繰り返し（6回）、「92年コンセンサス」に言及した点である。昨年（2014年）9月の「一国両制」発言と比べて、「平和的発展」に重点が置かれた印象を受ける。

次に、「92年コンセンサス」についての表現がわずかに変化していることである。習総書記は、もし兩岸の交流の政治的基礎が破壊されたら（すなわち「92年コンセンサス」が崩れたら）、「兩岸関係は不穏な以前の道に再び戻ることになる」と警告しつつも、「我々は終始『92年コンセンサス』の堅持を台湾当局と各政党と交流する基礎と条件としてきたが、核心は大陸と台湾がともに一つの中国に属することを認めることだ。この点ができさえすれば、台湾のどの政党・団体が大陸と交流することにも何ら障害は存在しない」と述べている。「92年コンセンサス」は譲れないが、「大陸と台湾がともに一つの中国に属する」ことさえ認めればよい、とのメッセージにも受け取れ、交流の基礎と条件をわずかに緩めた感がある。

一方、「台独」勢力に対する危機感がこれまで以上に強く示されている。習総書記は、「『台独』分裂勢力とその活動は国家の主権と領土の保全に損害を与え、兩岸の民衆と社会の対立をかきたて、兩岸同胞の精神的な紐帯を引き裂こうとしており、それは兩岸関係の平和的発展にとって最大の障害である」と強い口調で述べている。

そして、昨年1年間の兩岸関係については、「台湾海峡の情勢は全体としては安定していた」と位置づけた。その上で「兩岸関係の今後を方向づける鍵となるのは祖国である大陸の発展と進歩だ」と強調している。また、「兩岸同胞の福祉を図るという理念は変わらない、台湾同胞のために具体的なこと、良いことを行うという政策措置は変わらない」と明言している。「台湾の基層の民衆に恩恵を実感させるようにする」、「台湾の若者に才能を発揮し、抱負を実現させる舞台を与えたい」と述べているのもこれと同じ文脈においてである。中国の指導者が、対台湾政策が抱える問題点を意識しながらも、有効な手立てが見いだせないでいる様子が垣間見える。

なお、「中国の夢は国家、民族の夢であり、台湾同胞を含む中華の子ひとりひとりの夢でもある」と述べるなど、これまで習総書記の講話と同じように民族主義的な色合いを帯びたものとなっているが、「兩岸はみな親戚である」といった表現は使われていない。

### (3) 李克強総理の政府活動報告

李克強総理は3月5日、全人代で政府活動報告を行った。対台湾工作について触れた部分では、今回「基層・青少年交流を強化する」という文言が初めて盛り込まれた。「ヒマワリ学生運動」に始まる台湾での昨年の一連の動きが、中国政府の活動目標に影響を及ぼしていることがわかる。

対台湾工作に関する部分については、分量的には昨年とほぼ変わらないものの、表現の上で微妙な変化が見られた。昨年は「我々は対台湾工作の国家の方針を全面的に貫徹し、『92年コンセンサス』を堅持し、一つの中国の枠組みを維持し、兩岸の政治的相互信頼を強化し…」と述べられていた冒頭部分が、今年は「我々は対台湾工作の国家の方針を堅持し、兩岸が『92年コンセンサス』の堅持、『台独』反対という政治的基礎を強固にし、

兩岸関係の平和的發展という正確な方向を維持する」となった。「一つの中国の枠組み」という表現がなくなり、「『台独』反対」という文言が盛り込まれている。後者については「台独」勢力に対する危機感の高まりと関係するのかもしれない。また、「兩岸はみな親戚である」という表現も消え、「法治」という課題を意識してか、「法により台湾同胞の權益を保護する」という文言が加わった。

## 9. 台湾の AIIB 参加をめぐる動き

### (1) 「ボアオ・アジア・フォーラム」年次総会でのやりとり

台湾は、中国が呼びかける「アジアインフラ投資銀行 (AIIB)」への参加を表明し、創設メンバーを目指して、その最終期限となる3月31日に加盟する意向を中国側に伝えた。しかし、4月13日、創設メンバーになれないことが明らかになった。

「ボアオ・アジア・フォーラム」の2015年度年次総会が3月26日から29日までの日程で、中国・海南島の博鳌(ボアオ)で開催され、台湾からは昨年に続いて前副総統の蕭萬長氏が参加した。台湾がAIIBに参加する意向を最初に中国へ伝えたと言われるのは、3月28日、蕭萬長氏と習近平国家主席との短時間の会話の際である。

台湾メディアによると、蕭氏は28日、中台双方の関係者による記念撮影の場で、習氏と45秒間、言葉を交わした。この立ち話による会談で、蕭氏は台湾にはAIIBに参加する意向があることを習氏に伝え、習氏はこれに「はい、はい、はい」と頷いて応えたとされる。ただし、その場にいたはずの国台弁の張志軍主任は、台湾にAIIB加盟のチャンスはあるのかとのメディアの質問に対し、「台湾にはもちろんチャンスがある」としながらも、「まだ正式な加盟申請は受けていない」と答えていた。また、台湾が加盟する際の名称について

は、王毅外交部長が「国際的な慣例に基づいて対処する」と述べていた。

## (2) 行政院、AIIB への参加を表明

台湾は3月31日、創設メンバー入りを目指してAIIBへの参加を表明した。数日前(27日)には、馬英九総統が台湾メディアのインタビューで、「台湾はAIIBに積極的に参加すべきだ」との考えを初めて表明していた。

31日深夜、陸委会の夏立言主任委員と張盛春財政部長が会見を開き、AIIB参加を「駆け込み」申請したことについて説明した。張財政部長によると、昨年(2014年)10月に北京でAIIB設立の覚書(MOU)が調印された後、同年11月から台湾は参加の検討を始め、本年3月4日には中台関係の改善や投資機会の増加など「参加のメリットは大きい」との判断をまとめていた。張財政部長は、「米国から数回慎重に考えるよう働きかけがあった」ことを明らかにし、米国への配慮から意向表明が遅れたことを示唆した。しかし、英国が参加表明したのをきっかけに欧州諸国の参加表明が相次ぎ、米国政府も一定の協力姿勢を打ち出したことから、最終的に30日に意向表明を決断したと説明した。行政院は30日、関係官庁を集めてこの問題を協議し、同日午後の国家安全会議の定例会議で毛治国行政院長がその結果を馬総統に報告、馬総統は創設メンバー入りして、各国と対等な地位を得るよう指示したという。

毛行政院長は3月31日、プレスリリースで「尊厳ある原則の下、国家の最大利益を創出することが、AIIB参加についての最も考慮すべき点である」と述べて、「AIIBの創設メンバーになってこそ、台湾の権益が確保できる」と強調した。なお、同日深夜には、AIIB参加に抗議する若者らが総統府前で警官隊ともみ合い、彼らの一部が身柄を拘束された。

一方、政府によるAIIB参加表明に対し、立法

院から反発が起きたことから、毛行政院長は4月1日、急遽関係閣僚と立法院を訪れ説明を行った。王金平立法院長は、「各会派ともAIIB参加に反対ではないが、国家の尊厳が失われるようなら、参加しない方がよい」との考えを示した。

## (3) 台湾、AIIB 創設メンバーに入れず

中国・国台弁の馬暁光報道官は13日、台湾がAIIBの創設メンバーになれないことを明らかにした。馬報道官は、香港・中国評論社の報道を追認する形で、この件を認めた上で、「AIIBは国際的で、多国間による開発機構であり、開放的で、包容的でもある。適当な名義での台湾の参加を歓迎する」と述べた。馬報道官は、台湾を創設メンバーと認めない理由は明らかにしなかったが、「名称問題に関する台湾側の見解について注目している。今後も各方面の意見を聞きながら、台湾のAIIB参加問題を妥当な形で解決したい」との考えを示した。

これを受けて、台湾・行政院の孫立群報道官は同日、中国の決定に「遺憾の意」を表明した。今後、台湾が一般メンバーとして参加を目指すのかについては、「公平と対等の原則が守られなければ参加しない」とし、台湾の尊厳が冒されず、他のメンバーと対等な待遇を受けられるか否かを見極める考えを示した。また、「『中華台北』の名称での加盟が最低ラインである」とし、台湾の要求に合わない場合には参加しないと述べた。

一方、毛行政院長は13日、立法院を訪れ、王立法院長および与野党会派と対応を協議し、「尊厳と平等」の原則を堅持して、今後はAIIBの一般メンバーとなるのを目指すこと、名称は「中華台北」が最低ラインで、守られない場合には絶対に参加しないことを確認した。

中国はAIIBを「開放的」とうたって各国の参加を呼びかけてきたが、台湾の参加表明をめぐっては譲歩を拒んだといえる。馬総統は14日、日

本メディアとの会見で「当然、遺憾に思うが、正式メンバー、完全なメンバーとなるために努力を続ける」と語ったが、今回の結果は馬政権にとって痛手となりそうだ。

#### (4) 台湾住民の関心度は？

台湾のケーブルテレビ局 TVBS は 4 月 21 日、AIIB に関する世論調査の結果を発表した。同調査によると、台湾の AIIB への参加については、回答者の 54% が「支持する」（「大いに支持する」24%、「支持する」30%）と答え、「支持しない」と答えた 28%（「あまり支持しない」15%、「支持しない」13%）を大きく上回った。

しかし、「アジアインフラ投資銀行」という名前について、回答者の 53% が「聞いたことがある」と答えた一方、47% が「聞いたことがない」と答えている。さらに、「聞いたことがある」と答えた人のうち、64% が AIIB の目標と活動について「知らない」と答え、「知っている」と答えたのは 36% にとどまった。要するに、台湾の AIIB 参加に多数の人が賛成の意を示しているが、それは必ずしも AIIB そのものへの理解に裏打ちされたものではないようだ。

なお、政党支持別で見ると、台湾の AIIB 参加には国民党支持者の 85% が「支持する」と答え、民進党支持者のうちで「支持する」と答えたのは 39% となっている。「支持しない」と答えたのは、国民党支持者ではわずか 4% にとどまる一方、民進党支持者では 49% に達した。

### 10. 朱立倫主席、習近平総書記と会談へ

国民党は 4 月 24 日、朱立倫主席が 5 月 4 日に北京で共産党の習近平総書記と会談すると発表した。国共トップ会談は 2009 年以來、6 年ぶりとなる。朱主席は 5 月 2 日から 4 日に訪中する。2 日に上海入りし、3 日には国共両党が交流促進な

どを議論する「国共フォーラム」（「兩岸経貿文化論壇」）に出席する。その後、北京に移動して、4 日には習総書記と会談する。このほか、上海では復旦大学、北京では北京大学での講演も予定されている。

「国共フォーラム」は当初、昨年 12 月に開催が予定されていたが、11 月末の台湾統一地方選挙で国民党の大敗を受け、馬英九前主席を引責辞任したことに伴い、同フォーラムの開催も中止された。本年 1 月に朱立倫氏が新たな党主席に決まったことで、国共両党間では同フォーラムの開催に向けて調整が進められてきた。他方、朱主席は国民党内では来年 1 月の次期総統選挙で唯一「勝てる候補」と目されている。朱主席本人は「出馬しない」と繰り返しているが、立候補を期待する声も根強いことから、朱主席自らが同フォーラム出席のため訪中するのか、さらには習総書記と会談するのかが注目されていた。

そうした中、台湾のケーブルテレビ局 TVBS は 4 月 21 日、朱主席の国共フォーラムへの参加および習総書記との会談に関する世論調査の結果を発表した。朱主席の国共フォーラム参加について、「支持する」と答えたのは 38%（「大いに支持する」12%、「支持する」26%）、「支持しない」と答えたのは 19%（「あまり支持しない」10%、「支持しない」9%）であった。朱主席と習総書記との会談については、回答者の 50% が「賛成する」（「大いに賛成する」17%、「賛成する」33%）と答え、「賛成しない」と答えた 27%（「あまり賛成しない」15%、「賛成しない」12%）を大きく上回った。政党支持別で見ると、「賛成する」と答えた人は、国民党支持者では 86% にも達したが、民進党支持者では 35% にとどまった。一方、「賛成しない」と答えた人の割合は、国民党支持者ではわずか 3% にすぎなかったのに対し、民進党支持者では 54% となり、両者の間に大きな開きが見られる結果となった。

## 台湾内政と日台関係をめぐる動向（2015年3月上旬～5月上旬）

## 次期総統選挙と日本食品産地偽装問題

石原忠浩（台湾・政治大学国際関係センター助理研究員）  
（元（財）交流協会台北事務所専門調査員）

選挙事務にかかる主管機関の中央選挙委員会は、次期総統及び立法委員選挙を2016年1月16日に行うことを決定した。民主進歩党は正式に次期総統選挙の公認候補として蔡英文主席を選出した。台湾に輸入されている日本食品の産地偽装問題が発生し、台湾当局が日本食品に対する新たな規制を実施する動きがあった。野田佳彦前総理が訪台した。

## 一、次期総統選挙の日程決定と有力候補の支持率調査

## 1. 中央選挙委員会による次期総統、副総統及び立法委員選挙日の決定

台湾の選挙事務を主管する中央選挙委員会は、3月17日に委員会議を開催し、第14期総統、副総統選挙及び第9期立法委員選挙を民国105年（2016年）1月16日（土）に同時投票として行うことを決定したとのプレスリリースを発出した。

同委員会は、投票日が学生の期末テスト期間に近いことから、同会議の決議を試験事務の主管機関である考選部及び教育部に通達した。特に教育部に対しては大学・専科学校等高等教育機関の期末テスト期間が投票日に重ならないよう要請したと説明した。

台湾の選挙は、戸籍地に準じて投票するため、台北など大都市で就学している学生にとって、期末テスト期間中に選挙があることは、わざわざ選挙のために帰郷しての投票となること、大学生

の投票率が下がることが懸念されていた。中央選挙委員会の決定に対し、教育部次長は、各大学が作成した行事予定表によると投票日の1月16日時点でほとんどの大学で期末テストは終了しており、学生がテストの日程のせいで、実家に戻ることができず、投票に行けない可能性は低いであろうとの見通しを語った。

## 2. 次期総統選挙にかかる世論調査

『聯合報』は、4月15日に2016年1月に投開票が予定されている総統選挙にかかる世論調査の結果を発表した。

5月上旬時点で、政権奪回を狙う民主進歩党は、蔡英文主席が党公認候補として正式に選出されているが、政権与党の中国国民党は、党内予備選の受け付けが開始された段階であり、候補が出揃うのが5月中旬、公認候補決定は6月中旬の予定である。したがって、今調査は、蔡英文主席と国民党内の有力候補4名との比較で実施された。

表1が示すように、蔡英文主席と国民党候補の

表1 総統候補支持率調査

蔡英文 42	蔡英文 42	蔡英文 57	蔡英文 60
朱立倫 34	王金平 28	呉敦義 14	洪秀柱 12
誰も支持しない 6	誰も支持しない 10	誰も支持しない 12	誰も支持しない 12
未定 18	未定 21	未定 17	未定 17

（※小数点以下は四捨五入のため、総計で100%にならないこともある。）

表2 2-3月の蔡、朱両名の支持率の変化

	蔡英文	朱立倫	未定
2月8日	47	33	20
4月13日	42 (-5)	34 (+1)	24 (+4)

比較ではいずれも蔡主席が優勢の結果となった。国民党内では、朱主席が8ポイント差と小差となったが、王金平立法院長は14ポイント差、呉敦義副総統、洪秀柱立法院副院長の両名はトリプルスコア以上の大差がつく結果となった。

表2は、支持率の差が最も小さい蔡主席と朱主席の2月と4月の調査を比較をしたものだが、両者の支持率の差は14ポイントから8ポイントにまで縮まっている。

しかしながら、「蔡朱対決」になった場合、支持率の差は誤差圏内の8ポイント差であるにもかかわらず、表3が示すように「どの政党が勝ちそうか」の質問に対しては、民進党の勝利を予測する者が58%を占めたのに対し、国民党が勝利することを予測する者は10%にとどまり、4月中旬時点で台湾住民の多数が次期総統選挙は民進党が有利であると予測していることが分かる。

今調査では、藍軍支持者の64%が朱主席の出馬を望んでいる結果が出ているものの、本人は最終決定こそしていないものの出馬に否定的な反応を示している。

最後に、次期総統選挙後の兩岸関係の変化に対する見方を示したのが表4である。選挙後の兩岸

関係は民進党が勝利した場合は9%が「良くなる」、45%が「変化無し」、21%が「悪くなる」との見方であったのに対し、国民党勝利の場合は21%が「良くなる」、49%が「変化無し」であり、僅か7%が「悪くなる」と回答した。台湾住民は過去の陳水扁政権の兩岸関係が緊張を孕んだものであったのに対し、馬英九政権下では兩岸関係がスムーズに展開したことを踏まえての見通しであり、兩岸関係の安定という点からは、国民党政権に分があるとみている結果となった。

今回の調査を要約すれば、総統候補の支持率では蔡英文主席がリードし、民進党の執政を予測する住民が圧倒的に多かった。一方で、民進党政権が誕生しても兩岸関係は「変わらない」との見方が過半数に近い45%を獲得し、「悪くなる」の21%を大きく上回る結果となり、政権交代があっても兩岸関係に与える影響は限定的との見方が多数を占めた。

## 二、総統選挙を巡る与野党の動向

### 1. 民進党の動向

民進党は4月15日に第16期第9回中央執行委員会を開催し、42選挙区の立法委員選挙の公認候補と蔡英文主席を同党の2016年総統候補に選出した。蔡主席は、「自信を取り戻し、台湾を明るくする」(找回自信、點亮台灣)と題した記者会見を行った。

同会見では、「今日の記者会見が終了し、この建物から出た瞬間から我々には大きな使命を背負うことになる。我々は、あらゆる力を動員してこの国家を変える」と訴えた。更に続けて台湾住民が最も関心をもつ民生イシューを取り上げ「四つの

表3 どの政党が勝利するか予想

	民進党	国民党
2月8日	65	10
4月13日	58 (-7)	10 (±0)

表4 次期総統選挙後の兩岸関係の変化予想

	民進党政権	国民党政権
良くなる	9	21
変化なし	45	49
悪くなる	21	7

させない」(四個不会)として、不動産価格の値上がり、食品安全問題、環境保護、エネルギー問題に焦点をあて、「不動産の値上がりを社会の富裕の象徴にしない」、「利益を優先し、国民の健康を軽視する食品産業関係者を放置しない」、「国土保育と農業の発展が犠牲になることを放置しない」、「国民が再び原発災害のリスクと汚染された環境に曝されることを放置しない」との約束をした。

対外関係に関しては、「最も注目されているのは兩岸問題の処理であるが、兩岸関係は国共関係(中国国民党と中国共産党の関係)ではなく、将来民進党が政権を担っても兩岸関係は、民進党と共産党の関係にはならない」として、「兩岸協議監督条例の立法化を成立させ、将来我々が政権を獲得した後は、同監督条例に基づき、逐次法案を検討し、兩岸関係を引き続き推進させていく」と強調した。

また民進党の兩岸関係の基本原則は、「兩岸の現状を維持することである。政権交代はすでに台湾では民主的な常態となっており、将来どの政党が政権を担っても兩岸関係は国民の意志に基づくものでなければならない」と強調した。

今演説は、台湾の大多数が占める中産階級の需要に応えたものであり、前回の選挙でクローズアップされ、蔡主席の弱点であり、選挙で敗れた原因と指摘された兩岸関係にかかる主張は「現状維持を堅持」と述べただけで、台湾住民に最も関心の高い内政面での主張を全面に押し出す内容であったのが印象的であった。

その後、蔡英文主席は、23日に蘇貞昌前主席を訪問したのをはじめ、緑軍系の大老に挨拶に出向いたほか、張忠謀台積電董事長、台湾の経団連的組織の全国工業総会を訪問し企業界代表と意見交換をするなど積極的に動き出した。

## 2. 国民党の動向

昨年統一地方選挙で空前の惨敗を喫した国民

党は、馬英九主席が責任を取って辞任。本来なら、ポスト馬の後継者争いとなる次期主席をめぐる争いとなるはずであったが、同党への支持率が低迷する中で、後継有力者が深謀遠慮の中で他の要人の動向を探りあう中で、最終的には朱立倫新北市長が就任した。

しかしながら、朱主席は昨年、新北市長選挙に出馬した際にすでに「2018年まで新北市長の任期を全うする。2016年の総統選挙には出馬しない」と公言していることもあり、5月上旬現在、有力候補は出馬宣言をしていない。なお、国民党の候補選出は、5月中旬に立候補者の登記を済ませ、6月中旬には世論調査により公認候補を選出する予定になっている。

### (1) 朱立倫主席の動向

3月18日に、朱主席に対し予備選出馬を期待する国民党籍立法委員の40名が党内で連署活動を行い、朱主席に対し出馬を促したことが報じられた。しかし、その後も、朱主席は一貫して「新北市長の任期を全うする」との立場を堅持してきたが、毎日のようにマスコミから同様の質問をされることに嫌気がしたのか、計画的な発言だったのかは定かではないが、同市長が4月17日に新北市を視察した際のマスコミからの総統選挙に関する質問に対し、「私は2016年の総統選挙には出馬しない、こう言えばいいんだろう?」と発言したことが翌日の朝刊で大きく報じられた。同発言に対して、国民党関係者からは「失望」の声も聞かれたが、その背景には、多くの立法委員は支持率の一番高い朱主席が出馬することで、同時選挙の立法委員にとってもプラスになるのではないかとの思惑がある。しかし、同25日に朱主席が、彭淮南中央銀行総裁に対し国民党候補として総統選挙への出馬を勧めたが固辞されたとの報道が出るなど、5月上旬の段階では、朱主席が予備選に出馬しない可能性が高くなっている。

### (2) 王金平立法院長の動向

2015年1月に朱主席が主席に当選した後、党員の大多数が、党内和解の観点から、王院長の党籍確認裁判に対して、原告の党は最高裁に上告すべきではないとの主張が散見されたが、朱主席は原告の法定代理人として訴訟にかかる弁護士の人事を期限内に任命しなかったことで、実質上選挙を放棄したため国民党の敗訴が確定した。かかる流れの中で、党内の立法委員の一部には王氏擁立の動きが、頻繁に見られた。5月上旬の段階では、「出馬しないとは言っていない」と言う表現で出馬の可能性を匂わせているが、朱主席が不出馬の可能性が高まるなかで、「出るか出ないか？」というよりも、「いつ出馬表明を行なうか」という論調になっている。

### (3) その他要人の動向

台湾の憲政史上で初めての女性立法副院長の座に就いている洪秀柱女史は、齒に衣着せぬ発言から「小さい唐辛子」の異名を持つが、早い段階から党中央に対して、早期の党内予備選の実施、公認候補の決定を呼びかけてきた。しかし、4月3日に洪副院長自身が、党内予備選挙への出馬を表明することになった。世論の当初の反応は、洪女史が「捨て石」となり、党内の複数の有力者が早い段階で出馬を表明することで、低迷する党内の士気を高めるのが狙いではないかとの見方もあったが、同21日には予備選登録に必要な書類を取りに中央党部まで赴き、予備選出馬の本気度を内外に示した。洪女史は、2007年の国民党主席補選にも不可能な任務と言われた中、出馬したが、馬氏はじめ党内主流派の支持を得た呉伯雄と争い大敗している。

4月22日、楊志良元衛生署長が党内予備選への出馬を表明した。楊元署長は、公共衛生の専門家であるが、馬政権の第一期目に衛生署長に抜擢され、国民健康保険料金の値上げ、米国産牛肉の輸入開放問題などで奮闘したことが記憶に新しい。予備選出馬に際して党内規定で登記書類を受け取る際に200万円を保証金として党に納め、正式に登記する際には、選挙事務作業費として700万円納める必要がある規定を「金持ちしか予備選にでられない規定だ」などと厳しく批判したほか、「党内の有力者は、国や社会のためよりも自分の都合ばかり考慮し、打算的な計算ばかりしている」として苦言を呈した。

なお、国民党の有力候補には、朱、王の他、呉敦義副総統、李鴻源元内政部長の名前が挙がっている。

### 三、ひまわり学生運動1周年関連

『聯合報』は昨年、台湾社会を揺るがしたひまわり学生運動1周年を機に世論調査を行った。同調査の結果、興味深いのは半数以下の43%が学生運動の原因が兩岸サービス協定に反対することに端を発したことを覚えてただけで、57%が起因を忘れたと回答した。

台湾住民の学生の政府機関への占領行動については、立法院占領については賛成35%、賛成しない46%、行政院占領は賛成13%、賛成しない74%と否定的な見方が肯定的な見方を上回った。一方で警察力による実力行使による排除活動への対応は賛成44%、反対41%と拮抗する結果となった。(表5)

表5 台湾住民の占領に対する見方

意見	学生の立法院占領	学生の行政院占領	行政院の驅離行動
賛成	35%	13%	44%
不賛成	46%	74%	41%
無意見	20%	14%	15%

(※小数点以下は四捨五入のため、総計で100%にならないこともある。)

表6 ひまわり学生運動の兩岸関係と台湾社会に対する影響

	兩岸関係の発展への影響	台湾社会への影響
プラスの影響	26%	47%
マイナスの影響	23%	30%
影響は無い	33%	10%
無意見	19%	13%

(※小数点以下は四捨五入のため、総計で100%にならないこともある。)

資料元：「學運一周年聯合報民調」『聯合報』(2015年3月18日)頁1

また同運動の台湾社会と兩岸関係への影響に関しては、台湾社会へのプラスの影響との回答がマイナス回答より17%上回ったが、兩岸関係発展への影響はプラスとマイナスは26VS23とほぼ同じ回答となった。

学生運動後、若者世代の意見が重視されてるかどうかの設問では「比較的重視」64%、「余り重視されていない」23%、「意見なし」13%の結果となった。

今民意調査は、若年層の有権者の意見をより多く反映させるため、携帯電話所持者への電話訪問の形で行われた。従来の世論調査では家庭電話を対象に行われたため、携帯電話しか所持しない学生、社会人の意見を反映していないとの批判が強くていたことへの反省と思われる。

総統府は報道官が、「今こそ一緒に謙虚に反省と検討を行う時期であり、政府は開放的、積極的な態度で市民社会と対話することを望み、一緒に国家と国民のために将来の方向を探そう」と呼びかけた。蔡英文民進党主席は、「318学生運動は台湾社会に反省の機会をもたらした。政党は党内事務、責任と目標の他に社会が前進するための大きな責任を抱えなければならない。民進党は学生運動を利用したり政治利益を獲得する気も無ければ、学生運動と距離を置く意向も無い。民進党はその責任を背負うことを受け入れ、我が党は社会の大衆と一諸に内外の挑戦に向かって未来の方向を作っていく」と決意を述べるところがあった。

#### 四、台湾当局の日本食品輸入厳格化措置をめぐる問題

昨今の台湾では毎日のように、食品安全問題にかかかかる事件が紙面を賑わしているが、ついに日本食品が焦点になる事件が起きた。

##### 1. 日本食品の産地偽装が発覚

3月24日、台湾当局の食品薬物行政にかかる主管部門の衛生福利部食品薬物管理署の基隆弁事処は、台湾の輸入業者が、日本製即席めん、菓子、ボトル飲料など加工食品の生産地に関し事実と異なるラベルを貼って申告していたことを突き止めた。同署はその後、新北、台中、台南、高雄等の衛生当局関係者を動員して食品輸入に従事する会社の3千件近い食品を検査した結果、食品管理署が指定した放射能危険地域(福島、茨城、栃木、千葉、群馬)で生産された280件以上の食品を他県の生産と偽装して輸入していたと発表した。

その後、1週間の間に当局は上記5県で生産された商品をデパートやスーパーなどの店頭から撤去するよう通達した。また同時に、産地偽装されていた551点の食品に対し放射線量の検査をしたが、いずれも基準値を超える放射線は検出されなかった。しかしながら、輸入食品の産地偽装は関係法に違反しており、3-300万元の罰金処分になると報じられた。

日本以上に、反原発的の社会的基礎があり、食品問題に敏感になっている台湾社会の世論を反映

し、民意代表の代表格である立法委員は議会において職務怠慢などの理由で衛生当局を厳しく批判した。その過程で立法委員は食品薬物管理署に対し、日本からの輸入食品には日本政府の産地証明を付けるなどの要求をした。その後、4月13日に食品薬物管理署は、日本からの輸入食品に対して都道府県ごとの産地証明の添付と乳幼児が日常利用する乳製品、乳幼児の食品、飴、お菓子及び穀類食品などに対し放射性物質の検査を義務付ける日本食品の輸入規制を厳格にする新措置を5月中旬から行うと発表した。「被災地域」に指定されている上記5県の食品の輸入は引き続き禁止措置となっている。その後、同規定は4月16日に公告され、5月15日から実施されることとなった。

台湾メディアは、当局の新措置に対し日本政府が科学的根拠がないとして新措置に困惑している様子や、批判をする現地の声などが報じたが、『聯合報』の日本特派員は、台湾当局が原発事故から4年経った現在でも上記5県を依然として被災区と認定しているが、台湾人観光客が訪日の際に、放射能汚染を心配して（被災区に指定されている千葉県の）ディズニーランドに行かない人は極めて稀であろうし、日本の感覚では、震災事故から4年経った今でも上記五県で生産された食品加工品が「被災区」として禁輸扱いされていることは、未だに「啞然、失笑」の対象になるとして疑義を呈した。他にも、台湾の日台関係筋は、今回の新措置が日台双方のEPA交渉に悪影響を与える可能性を危惧するとの発言を紹介するなど、一部世論は台湾当局の自己組織防衛的な行き過ぎた反応に対し、疑義を呈する意見も散見された。

## 2. 岸信夫参議院議員らの訪台

4月27日付『聯合報』は、自民党の若手有志議員で構成された「日本・台湾経済文化交流を促進する若手議員の会」の岸信夫会長ら12名が4月

29日から5月2日の間まで訪台し、馬総統はじめ台湾要人と会見する旨を報じた。同紙は今回の議員団の訪台は、台湾当局が5月中旬から実施予定の日本食品の輸入に関する新規制について意見交換をし、安倍総理の信頼が厚い萩生田議員が総理の書簡を持参し、台湾側が日本の食品安全問題に関して誤解していることを説明し、良好な日台関係に影響しないことを望む等の表明がなされるであろうと報じた。一方、台湾外交部は、今回の議員訪問団は日本のゴールデンウィークを利用した訪台であり、正常な両国要人の交流活動であり、日本食品の産地偽装問題とは関係ないと説明するところがあった。

同議員団は台湾到着後30日に南部を視察し、頼清徳台南市長、陳菊高雄市長と会見したほか、朱国民党主席、蔡民進党主席と相次いで会談し、台湾当局の日本食品の新規制措置につき意見交換をした。

国民党は、朱主席が「国民の安全と安心の前提下で日本政府と食品安全問題を解決したい」と述べるところがあったと説明した。

民進党は、蔡主席が「同議員団が先に南部首長を表敬し、意見交換したことを日台関係の深化の点から評価したほか、安倍総理の訪米の成功について祝福するとともに、日米両国が東アジアにおいて引き続き平和と安定を維持する重要な役割を果たすことを期待する」との発言があったと説明した。

5月1日の馬総統との会見では、日本側は台湾当局が5月15日から実施する日本食品の輸入管理を強化する問題に対して、延期するよう申し入れたのに対し、馬総統は「科学と理性的な態度と双方の友好関係を以って解決することには賛成である」と述べつつ、「今回の産地偽装事件は、台湾住民の日本食品の輸出管理制度に対する信用を失うことになった。現在の問題は『食品が安全か否か』ではなく、『生産地のラベルが不正確』であっ

たという問題であり、台湾住民の日本食品を購入する意欲に影響を及ぼした」と指摘するとともに、「先に偽装事件を解明し、再犯を防止する制度を検討することで、正当性を有することができ、国会と国民に説明できる」として台湾側の新措置に一定の理解を求めた。馬総統からはその他、「今事件に関しては、日台の検察機関同士で協力して捜査し、国家の枠組みを超えた犯罪を取り締まるために司法協力の覚書などを結び、捜査することを望む」と述べるどころがあった。

## 五、野田前総理の訪台

野田前総理が民主党議員とともに、社団法人対外関係協会の招請で4月30日から5月3日の日程で訪台した。訪台期間中は、馬総統、王金平院長など要人と会見したほか、新北市、宜蘭県などの地方視察も行った。

5月1日に行われた馬総統との会見で、馬氏は自身が総統に就任して以後、25の覚書（協定）に調印するなど、日台関係は以前ないほどの境界に入ったと述べるとともに、2012年に野田氏が首相当時、台湾が提出した平和的解決を原則とし、「主権は分割できないが、資源は享受できる」を理念とした「東シナ海平和イニシアチブ」に対し、野田総理が交流協会を通じて支持を表明したことに対し、感謝を表明した。

また、馬総統は昨年の日台双方の人的往来が約460万人と過去最高を記録した他、経済交流も双方の貿易パートナーとして3-4位を占め、2011年に締結された「投資取り決め」のおかげで益々緊密になっていると強調した。また台湾が進める対外経済戦略の一環として、台湾はRCEP、TPPへの加盟を目指しており、日本に対して引き続き台湾の同枠組みへの加盟を支持していただくよう希望する旨の発言があった。

## 六、歴史問題、安倍総理の訪米関連

### 1. 日本の教科書に尖閣諸島が日本領土と明記された問題

台湾外交部は、文部科学省が4月6日に公布した中学校の教科書の中に、尖閣諸島（台湾名：釣魚台列嶼）が日本固有の領土と記したのは事実と異なる表現であるとして、我が国（台湾）政府は厳正なる抗議を行い、我が国が尖閣諸島に対して有する主権の一貫的立場を表明し、如何なる我が国の主権を脅かす行為は無効であると述べた。

4月8日付『旺報』は、今回の教科書問題では領土問題に関し、台湾と韓国が「厳正抗議」をしたのに対し、中国が若干ソフトな「嚴重関切」という表現を使ったのは、中国側が最近展開している日中両国の対話に影響を及ぼしたくない意図があるのではないかと論評した。

### 2. 日米防衛協力のための指針発表に対する台湾側の反応

4月28日、日米両国は新日米防衛協力のための指針を双方の外務、防衛大臣の2+2の会談の場で了承し、記者会見では、「尖閣諸島が日本の施政の下にある領域であり」、「日米安全保障条約第5条の下でのコミットメントの範囲に含まれること、及び同諸島に対する日本の施政を損なおうとするいかなる一方的な行動にも反対する」ことを再確認したことに対し、台湾外交部は、高安報道官が29日に「日米安保体制はアジア太平洋地域の安定した基礎であり、東アジアの安全保障にとって重要な支柱である」と歓迎する表明をした。一方で、尖閣諸島について言及された部分に関しては、「（尖閣諸島への言及は）行政管轄の範囲でしかなく、主権帰属問題とは無関係であり、改めて我が国が尖閣諸島が固有の領土であることを表明する」と述べるどころがあった。

## 日台青年交流事業 2015年2月3日～2月10日

公益財団法人交流協会では、日本と台湾との青年交流を促進するため、日本に関する様々な分野について研究をしている台湾の大学生を日本へ招聘しております。平成26年度は、2015年2月3日から2月10日の8日間、“ウィンターキャンプ”として20名を招聘致しました。ここに、今回招聘した20名のうち、男女各2名の訪日報告書をご紹介します。

### 最も美しい風景は人

淡江大学  
英文学科 二年 林勃志



飛行機が飛び立つ時、なぜか奇妙な感覚に陥りました。日本、こんにちは。東京羽田空港、ここは私が初めて踏み入れた日本の国土です。初日の行程は多くはありませんでしたが、とても日本の郷土色が強いものでした。和風の建築、玄関にある仁王、室内の畳、初めての温泉。そして露天風呂で末石さんと初めて話をし、私はここで多くのことを学べるのだと深く感じました。食事前の礼儀から日本人の心の持ちようまで様々なことを。同室の男子学生とは色々な話をしました。ウィンターキャンプに参加した学生は本当にレベルが高く、とてもすごい学生たちでした。会話の中からもそれがよく分かりました。私たちは台湾高等教育の希望であり、自分の夢を持っています。自分の目標を持っています。所謂「イチゴ族」と呼ばれる岐路で迷っている学生とは違います。その日の夜、私は初めて雪を見ました。かまくら祭りでは日本人の芸術や作品に対する意識を理解しました。どのかまくらも適当に作られてはおらず、全てが心を込めて作られた作品であり、最高芸術でした。日本での最初の朝は伝統的な和朝食から

始まりました。みそ汁の温かさは胃の中から私にこう語りかけるようでした。日本での数日間、私は体からもしくは心から日本文化や知識を吸収するのだと。日光東照宮にある碑にこんな言葉が書かれていました。大凡の意味は急がなければ目的地に到着できる、だからゆっくりと行けばいい、というものでした。実際私が日本で過ごした時間で一番大きな収穫は多くの人、素晴らしい人に出会ったことと精神的な成長でした。それらは私の心に美しい景色として焼き付けられ、今後一生の助言となりました。初めて日本の大学生と交流し、一緒に討論し、そして初めて日本語で自分の意見を発表し、報告しました。多くの友達ができ、心の中は満足感に溢れ、世界どこにいても一人ではないという感覚に陥りました。日程が進むにつれて、慌ただしい行程ではバスの中でようやく休むことができました。しかし日本の街並を見ていると常に台湾と比較をしてしまいます。日本人の公共衛生への配慮、その建設及び一貫した対応に気づきました。小さな点、それはゴミ箱一つを取ってみても日本人の配慮に気づくことができました。

ホームステイでは、お父さんが議員で、家の中には選挙のポスターがあり、少し不安に感じましたが、お父さん、お母さんともにとても優しい人でした。彼らには子供がおらず、だから多くのホームステイを受け入れているのだそうです。スーパーに言った時、もてなされているという感

覚を受けました。鈴木ママは私たちを本当の子供のように、何が食べたいか尋ねてくれ、多くの果物を買ってくれました。また私たちの健康を気づかって牛乳を買ってくれました。更に私たちの健康のためヤクルトを買ってもらった瞬間、私が小学生の頃にお母さんの手を引いてヤクルトをせがんだ場面を思い出しました。鈴木ママは私たちとスーパーで買物をした時間を楽しんでくれたでしょうか？心の中でくすっと笑いつつ、心の中には一滴の涙も流れました。別れのときはきっと辛いだろうと思ったからです。ママは何が美味しいか、近くのどこが楽しいかを話してくれました。可能ならばもっと彼らのそばにいたかったです。鈴木ママは伊東はとても素晴らしい場所で、山も海もあり、美味しい物がたくさんあるのだと話してくれました。その時私は心の中であることを決めました。将来私は日本を訪れ、サプライズで彼らを尋ねようと。翌朝、私たち一行はリフトに乗り、大室山に登りました。皆で美しい富士山を見た時、私は柱に書かれた字に目が止まりました。「世界人類が平和でありますように」。私の頭によぎったのは戦争、貧富の差、種族という言葉です。私たちは皆一緒なのです。人に貴賤はないのです。伊東市の美しい眺望を見た時、私の心は清々しさと満ち溢れ、私の脳を目覚めさせ、充電させてくれました。この言葉は私の心に刻まれました。これは私が得られた大きな贈り物です。

この旅行で、私は多くの初体験をしました。数多くの美味しい食事、数多くの美しい景色、しかし最も美しく、最も忘れ難いもの、それは人です。この旅行では貴重な体験が多く、地元の日本料理を食べ、豪華で荘厳な和服を着ました。しかしこれらはどれも阿部さんや鹿養さんの笑い声にはかないません。一、二、三！まだ日本を離れて数日ですが、彼女たちの写真を撮るかけ声を懐かしく感じます。また末石さんの笑い声や彼の道を歩く背の高い後ろ姿、流暢に操る北京訛りの中国語も

懐かしく感じます。全て、本当に全てが急に遠くなってしまいました。そしてウィンターキャンプを一緒に過ごした仲間たち。私たちは将来きっと再会することでしょう。私たちの心は強い絆で結ばれています。私は日本も団員たちも忘れてりません。これは私たちが日本を訪れて得た最も貴重な収穫です。晚餐の席で林副組長がこうおっしゃいました。私たちは政治、経済、外交を比べてみても、私たちが最も重要なこととして学ぶべきは日本人の精神と何事にも真面目に取り組む態度だ、と。それは「完璧な事前準備」であり、今回の旅行でも一切何も突発的なアクシデントはありませんでした。一切の準備が万端で、私たちに最高で素晴らしい楽しみと体験を与えてくれました。これが日本人です。謙虚で、真面目な点は私たちが学ぶべき点です。土評が「日本は最初に台湾と断交をした国家ですが、将来日本は最初に台湾と国交を結ぶ「国家」となって欲しい」と発言し、その時は多少の騒ぎを引き起こしました。しかし私は彼の意見には理があると思います。なぜ交流協会があるのでしょうか。なぜ東京に台北経済文化代表処があるのでしょうか。私たちには交流が必要です。双方の橋渡しをする人材を育てなければなりません。そうすることでアジアが、世界がもっと良くなるのです。台湾と日本の間には良好な関係がある、と私は思っています。国際社会において台湾は外交で数々の困難に出会ったり、天災で緊急的な状況になっても世界中から多くの援助を得られる国です。日本に来てみて、日本人は台湾人に対して本当に友好的なのか、それともただ「客人」としての温かさなのか、私は答えを得ました。多くの学生と交流し、彼らが本当に台湾を理解したいと考えていること、台湾を好きだということが分かりました。それは私たちも同様で、日本を理解し、日本を認識し、日本に関わることで、双方のより良い未来のために私たちは力を積み重ね、より良い明日へと歩き出すこと



で、未来は更に良いものとなります。私は台湾人であることを誇りに思います。幸せに思います。日本を知ることができたことも私の誇りです。ホームステイでの歓迎会の夜、私は島唄を歌いました。私は気持ちを言葉で表すことが苦手です。ですから私の感謝の気持ちを全て歌に任せたのです。私は日本に戻って来ます。多くの収穫がありました。将来私はそれらを日本に還元します。また今回のウィンターキャンプのメンバーには卒業する人、留学する人、続けて学業を修める人など様々ですが、今回の日本旅行は私たちを結びつけ、私たちはともに社会のため、世界のため貢献できるように頑張ります。例え各地に散らばっても、私たちは同じ空を見て、より良い未来へとゆっくり進むのです。

## 光が交差する梅と桜

国立中興大学食品応用生物  
科学技術学部 蕭宜庭



今回のウィンターキャンプ、私は出発前に自分

に目標を持たせました。それは「自分自身の日本を見る」ということです。メディアや先輩、友人、ネットなどの他人の目から見た日本、ではなく。そして終了後、八日間は充実していて、まるで一ヶ月程過ぎたような感覚でした。その中で得たものは私が以前持っていた知識を完全に上回っていました。今回の目的は以前の日本との相違点を確認するものではなく、初めてこの国をきちんと認識することです。ウィンターキャンプは終了と同時に、新たな始まりを迎えました。この八日間を思い出すと、私は押さえきれずに日本に関してもっと色々なことを学び始めたのです。

最も得難い経験は日本の大学生との交流と討論です。宇都宮大学、地方色のある静岡県立大学、トップクラスの大学の一つ、東京外国語大学、この分野の違う三校はそこで学ぶ学生たちにも各々特色がありました。宇都宮大学の学生は台湾の認識が深く、中国語能力も高かったです。観光に関する議論の時もユーモラスな話し振りや高い統制能力を持ち合わせていました。その中で日本人は台湾に関する情報の多くは雑誌や旅行書、旅行番組から得ているのだと知りました。台湾人は主にネットを介して日本を知ります。台湾のネット力は日本にまで及んでいないのかと思わず考えてしまいました。もしくは私たちの固有の文化は日本人に台湾を理解させたいとは思わせないのでしょくか？ 私たちが伝えたい台湾は101や小籠包だけなのでしょうか？

二日目、静岡県立大学に行きました。その学生は宇都宮大学の学生のように皆が台湾を理解しているわけではありませんでした。彼らの台湾に対する認識は、位置や食べ物が美味しいということだけでした。台日関係は良好ですが、全ての日本人が台湾を良く知っているわけではありません。つまりは民間外交がとて重要になってくるのです。静岡県立大学での討論テーマは比較的難しいものでした。しかし私たちは多くの貴重な考えを

得ることが出来ました。例えば日本の学生が政治に対して興味が低い原因です。それは日本が高齢化社会であるため、立候補者が老年層の票を優先的に獲得しようとしており、若年層の考えを重視しないため、若年層は自分の一票が重要ではない、と考えるようになったのです。私たちのグループテーマは台日双方の影響です。私たちは容易に日本の台湾への影響を列挙できたにも関わらず、台湾の日本への影響を討論する時結論をまとめることができませんでした。先生の指摘の後、台湾の日本への影響は比較的内面にあるのだと気づきました。例えばOEM産業等です。私たちが見ていたものはとても表面的だったのです。台日の間には食べ物、建築、文化の他に多くの関係が私たちの見えない部分で緊密に繋がっているのです。今回の交流で新しい知識を学んだ他、私たち自身の欠如している部分を顧みることができました。

最後、私たちは東京外国語大学を訪れました。ここの学生は経験も豊富で、多くが留学の経験を持っています。更に日台学生会議に参加している学生や会社の運営事務を始めている学生すらいました。討論の中で私たちは一体台湾の何を推薦したいのですか、と先生が問いかけて来ました。私たちが考えて出した答えは——文化。台湾は日本のような独特の文化は持っていません。しかし中国文化、日本の殖民、少数民族の伝統を併せ持つ台湾の新しい文化が精錬されました。更には現代の文化創造産業が結合し、私たち独自の特徴を持ちました。この答えは私たちが異郷を旅した最終日によく出し得た答えです。日本へ来て、日本を理解しただけではなく、台湾に対しても新たな考えを持つことが出来ました。

学生交流で日台の相違点を理解した他、景色も日本は台湾と多くの点で異なります。今回日本へ到着して、初めて雪を見ました。雪に染まったまっすぐ延びた道路、平たい家屋、女神の名称を持つ富士山。特に駒ヶ岳ではぬかるんだ細い道を

歩き、真っ白な雪に覆われた山頂には神社が静かに建っていました。まるで絵画のような景色で、そのまま煙になって消えてしまうかのようでした。他に、車から凍結した湖面を見ました。一つトンネルを抜けるとそれはキラキラ波打つ湖面に戻っていました。同様に忘れられない景色は芦ノ湖と様々な角度から見た富士山です。大自然が私たちに多くのプレゼントをしてくれました。住み慣れた快適な環境から出ることで、私たちは各地に散らばった宝物を一つ一つ拾えるのです。他にも日本では文化的な風景もとても豊富です。徳川家康が眠る東照宮、地元住民で作り上げたかまくら祭り、以前から残されたものであっても現代に築かれたものであってもこれら文化が溶け込んだ風景は寒い日本で格別の温度を保っていました。

今回は多くの日本文化も体験しました。温泉、スキー、日本家庭等です。初めて全ての服を脱いで入る温泉を体験しました。最初はとても恥ずかしかったですが、上半身は寒く、下半身は温かい露天風呂、目の前に広がる雪が覆う山々は最も忘れ難い温泉経験となりました。初めてのスキーもとても新鮮でした。想像よりも難しくはありませんでしたが、移動は思うようにいきませんでした。日本の子供たちは誰もが非常に上手で、とても羨ましく感じました。日本の学生が言うには、日本の北部の人はスキーが得意で、南部の人は泳ぎが得意だそうです。このような地方の相違点はとても興味深いです。日本という土地は狭く長い。これにより各地に異なった文化が育ちました。今回体験したことはその中のほんの少しだけです。私はより多くの地域を理解したくてたまりません。ホームステイでは和服体験が用意されていました。当時私たちのホームステイ先ではこの体験は計画されていませんでした。心の中では少し残念に感じていたのですが、驚いたことに歓迎会の時にホームステイグループのお母さんが特別にスーツケースで何着もの和服を持って来て、私たち和



服を着ていない二人に体験させてくれたのです。しかも一般的な和服ではなく、結婚式に着る振袖を持って来てくれました。本当に感動しました。和服を着られたことよりもお母さんの心の温かさが心に深く染み入りました。

最も忘れ難いのはやはり人と人の「絆」です。宇都宮大学生は努力して言語の隔たりを乗り越え私たちと話しをしてくれました。静岡県立大学の学生とは居酒屋でお酒を飲みながら様々なことを

話しました。東京外国語大学の学生とは一緒に発表しました。日台学生会議のメンバーとは食事をしながら友情を深めました。これらの縁はとても貴重なものです。またホームステイではたった二日間だけの付き合いでしたが深く厚い情が生まれました。その時の「さようなら（再見：再び会いましょう）」はその場だけの建前ではありません。この他に、この活動中ずっと付き添ってくれた末石さん、阿部さん、鹿養さんはずっと私たちを注意深く見守ってくれました。常に連絡を取り、私たちの行動に目を向け、私たちの喜びのために喜んでくれました。人は旅の中の最も美しい風景です。これらの絆は私たちの心の底で結ばれています。ホームステイの歓迎会で、一人のおじいさんがこう言いました。彼は四十年前に台湾で仕事をしていた、多くの親切な台湾人にあった。だから今彼はホームステイ先を提供している、と。この繋がりが今後もずっと続いて欲しいと感じました。たとえ時間が違って、場所が違って、人と人の繋がりは同じように温かいのです。今後私は今回受けた友情を出来る限り伝えて行きます。そうすることでこの旅の意義を残し続けて行きます。

今回のウィンターキャンプでは本当に多くのことを得ました。私は一体何を支払えばいいのでしょうか？私は社会学を学んだ学生ではありません



ん。しかし今回は社会学の角度から多くの観点と考え方を学びました。それらは自然科学の環境では得ることができなかったものです。私の専門である食品生物科学技術の角度からも今回の日本旅行では多くの日本の先進科学技術を見ることができました。例えばコンビニでの多くの新商品と保存方法。更には日本各地の歴史や地理から醸し出された多様な「食」文化。数百年の技術の上に成り立つ多様な進化。食品は自然化科学だけでなく、その歴史、文化等社会科学の領域と切り離せません。もし日本で食品加工に関して研究できるならば、日本の文化を感じ、理解できるはずです。このような考えが私の心に芽生え始めました。このような専門の分野以外にも私は今後積極的に台日交流の機会に参加し、台日の架け橋の一部になりたいと思います。交流協会がウィンターキャンプを主催してくれたことに感謝します。この八日間で学んだ日本は私が以前に想像していたよりも遙かに美しいものでした。今回出会った人、事、物は私の心の中に種を撒きました。私は今後も努力をし、養分を蓄え、将来綺麗な花を咲かせたいと思います。

## 初めて

輔仁大學

日本語学科 三年 邱羿涵



日本語を学び始めてもう三年目になります。この三年間言葉を学んだだけでなく、多くの日本文化を学びました。しかし学習するツールは本やテレビなどのメディア、インターネットに限られ、日本の素朴且つ華やかな文化に憧れて日本語学科に入学した私にとって今回の活動以前に日本へ行ったことがなく、心の中では空しさが拭えませ



んでした。

今回の旅行は各大学、各学科から 20 名が集まりました。皆 26 日に初めて顔を合わせた後はこの八日間の旅行まで顔を合わせないため、心の中では見知らぬ人と一緒だと言う不安がありました。しかしこの八日間の旅行中、私たちは一緒に笑い、自分の長所でお互いを助け合い、一緒に目の前の美しい景色に感動し、まるで行軍のようなサラリーマンや元気な子供たちを見て一緒に興奮する、まさかそんな関係になるとは思ってもいませんでした。最後の夜は一緒に部屋に集まり、騒ぎながら、私たちを厳格に監督してくれ、多くの写真を撮ってくれ、一緒に笑ってくれた阿部さん、粛々と私たちの行程を進めてくれた鹿養さん、私たちに同行してくれ、各地の風習を紹介し、また常に私たちに通訳をしてくれた優しい末石さんに対して、小さなカードに感謝の気持ちを書きました。この三名がいたから、私たちは海外でもこんなに安心して楽しく旅行することができました。

もともと知り合いではなかった二十人が日本でお互い絆を結び、一緒に日本という魅力溢れる国土で数多くの美しい思い出を作りました。台湾に戻っても空港で長く別れを惜しんでいました。なぜなら私たちは知っていたのです。台湾に戻ると各々がそれぞれ別の方向に進み、また同じ 20 人で集まるチャンスはほとんどないことを。

今回のウィンターキャンプは多くの初体験を私

にもたらしてくれました。

初めてこんなに充実し、幸運な海外旅行を体験しました。そして、初めて新旧が融合した魅力溢れる日本へ来ました。

初めて雪で覆われた白銀の大地が朝日に照らされ、まるで宝石のように光輝いている様子を見ました。私の喜びとは対照的に天から舞い落ちる雪の花は静かに私たちへと降り注ぎ、ゆっくりと私の手の中で溶けて行きました。

初めて恥ずかしながら皆の前で服を脱ぎました。それは湯気がたっている露天風呂とその前に広がる雪が舞う美しい景色のためですが、心も体も無二の寛ぎを感じました。この時ばかりは多くの雑事を放り投げ、心を洗い流しました。

初めてお辞儀をして鮮やかな赤い鳥居をくぐりました。荘厳で静寂の中を歩き、冷たい水で汚れた服を落とし、賽銭箱の前で敬虔な気持ちで合掌しました。百年を越える歴史を持つ本殿の床を踏みしめた際、靴下を通り感じた刺すような冷たさが私たちに前進を促し、本殿内部の神秘を窺い知ることができました。その後太陽の光の下、鬱蒼とした森を通り抜け、石で作られた階段を通り上へと登っていきました。そこでこの地に眠っている武将一家康公を参拝しました。

初めて雪化粧した富士山が薄く広がる雲の間に聳え立っている様子を見ました。車内の私たちは驚嘆の声を惜しむことなく捧げました。数日の日程で、山頂が真っ白な雪で覆われた富士山が恥ずかしそうに雲間に隠れてしまう様子を見ることができました。台湾にはこのような形の山はありません。ですからこのように皆の目を引くのです。台湾に戻る飛行機の中から近距離で何にも隠れることない美しい富士山の景色を見ることができました。

初めて人の温かさが溢れるホームステイをしました。心のこもった豪華な食事、これこそが私たちが受けた家庭での最も美しい場面です。温かな



こたつに入るよう薦めてくれ、日本人はとてももてなし上手だということ、自分の家に誇りを持っていることを感じました。最後別れの時には私たちが見えなくなるまでずっと手を振り続けてくれました。

初めてテレビを通さずにひな人形を見ました。そして近距離でじっくりと精巧に作られた人形を鑑賞しました。髪飾りから顔の表情、服に至るまで精緻な作りで、その様子に陶醉してしまいました。もてなし上手の伊東市の人々はこのような貴重なひな人形を1つ選び私たちの贈り物にしてくれたのです。とても驚き、また嬉しかったです。

初めて豪華絢爛な和服を着ました。着用方法が複雑な和服は一人では到底着ることはできません。お母さんたちの手助けの下、どの女子学生もまるで花のように美しく、男子学生は皆威風堂々の大人へと成長していました。帯はきつく結ばれ、呼吸ができないほどでしたが、背をまっすぐにし、小さな歩幅で文化財である東海館の中を歩いた経験は他の何ものにも代え難い美しい思い出です。

初めてスキー場へ行きました。不慣れな様子で全ての装備を装着し、スキー板とストックを担いでスキー専用の靴を履き、息絶え絶えに階段を登りました。停まれない恐ろしさを体験し、何度も転ぶ練習をしました。皆の笑い声の中スキー場のリフトに乗り、気持ちも高く登って行くリフト同

様どんどん高揚しました。どんなに寒くても、私たちの熱い想いの温度を下げることはできません。上に到着するとすぐに雪合戦が始まりました。疲れると人目も気にせず雪の上に寝そべり手足を大きく動かしました。体で今この時を感じようとしたのです。

これらの新鮮で好奇心溢れる体験の他に、宇都宮大学、静岡県立大学、東京外国語大学の学生たちと日台をテーマとした相互交流を行いました。皆一所懸命自分の学んだことを使い、日台間の旅行、違い、歴史文化、政治、学生運動、中国の見方など、これまで日本人と討論したことがないテーマに関して談義しました。日本語学科の私にしてみれば、異なった分野の語彙の認識や使い方の検証をする場になりました。このような交流活動に参加できたことで、旅行だけでなく、更に深く文化や政治、経済など幅広いテーマで日本人に台湾を知ってもらうことができました。交流をしていると、自分が担う役割がとても重要で、日本語能力を持つ私は多くのことができるのだと気づきました。自分の責任が重大であることを痛感しました。

長いようで短かった、短いようで長かった八日間、私たちは日本全土を廻ったわけではありません。じっくりと風情漂う日本の美しい景色を堪能したわけでもありませんし、八日間で日本を完全に認識できたわけでもありません。しかし萬巻の書を読むより万里の道を行け、という言葉通り、もし今回の身を持った体験がなければ、本当の意味で一つの国土の風土風習、文化、そこに暮らす人々を理解することはできません。日本人が何事にも真面目なこと、親切な態度、これら昔から受け継がれている『和』の心を直接目にすることで、この日本と言う国は魅力溢れる忘れられない場所となりました。初めての日本旅行は私の人生に美しい一小節を刻みました。台湾に戻ると感動と感激でいっぱいでした。交流協会がこのような素晴

らしい機会を与えてくれたことに対し心から感謝します。今後もし機会があれば、自分の力を発揮し、台日間の交流をより活発にする手助けをしたいです。

## 感謝と学習の旅

政治大学

新聞学科 四年 林士評



今回の「日本理解」ウィンターキャンプの日程は今思い返しても思わずにやけてしまうほど、心の中に限りない感謝が詰まったものでした。

まず日本政府が台湾大学生にこのような千載一遇のチャンスくれたこと、私たちに無償で日本の伝統と現代を体験させてくれたことに感謝します。

私はきっと永遠に忘れません。南国に身をおく私の初めて雪を見た時の感動を。初めて重装備で雪原に赴き滑ったスキーの興奮を。初めて日本のサラリーマンが整列をして、まるで行軍のように横断歩道を歩く姿を見た時の驚嘆を。初めて日本の大学生と日台の生活の違いや中国の台頭に関して話した衝撃を。初めて高層ビルが建ち並ぶ東京の街並を歩き、地下鉄の出口で寒風吹きすさぶ中路上で詩を売っている人を見た驚きを。初めて日本の和服を来た楽しさを。初めて日本の家庭でまるで家族のようなもてなしを受けた感動を。初めて富士山を見た時の喜びを。多くの初めてがあり、多くの思い出があり、三日三晩でも語り尽くせません。短い7日間のウィンターキャンプでしたが、こんなにも多くの美しい思い出ができたのは日本政府が心を配った手配をしてくれたおかげです。

ウィンターキャンプの情報が届いたのは本当に



突然のことで、全く予期していませんでした。大学三年から四年に上がる夏休み、久しく気持ちが沈んでいる時期、何百回という熟考を重ねた結果、日台関係の外交分野に身を投じようと決心しました。ですから大学四年の前期からすぐに本校の日本研究修士課程を受験する準備を始めました。しかし私自身は関係する学科の出身ではなく、これまで日本の政治・経済・外交の分野に対して深い理解があるわけではありません。勇気を出し、貪欲に日本研究修士課程の授業へ飛び込みました。その授業で今回私を推薦して下さった先生一蔡増家先生とお会いしました。その授業でただ一人の大学生だった私は先生の推薦を受けて今回の活動に参加することができました。当時この知らせを知り、内心驚きと喜びでいっぱいでした。その後の数週間、夢ですら笑いがこぼれてしまうほどです。蔡先生が日本で見聞を広げられるこのようなチャンスくれたことに感謝しています。

私自身は素食者ですが、日本の素食は台湾ほど普及しておらず、そのため日本の食事をほぼ全てガイド兼通訳の末石さんが責任を持って対応してくれました。食事前、どの料理が食べられるか、どの料理が食べられないか、を一つ一つ真剣に伝えてくれた他、もし材料が不明瞭な料理に出会ったら、いつも店員に動物系食物が含まれているかどうかを確認してくれました。時には彼の食事時間まで削っていたので、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。一度バスの移動中に末石さん

がわざわざ後ろの席まで来て私に翌日の朝食時間を確認してくれました。この努力は全て私が日本で安心して食事できるようにしてくれるためです。末石さんがいてくれたからこそ、七日間の旅行中私は何も心配なく目の前にある日本のおいしい料理を食べることができました。感謝の気持ちが言葉として溢れてきます。

日程の中で日本政府は特別に伊東市でのホームステイを手配し、私たちに日本の日常生活を体験させてくれました。私と団員の莊坤哲は服部さんが経営する民宿に泊まりました。環境はとても静かで、民宿の内装は精緻で趣があり、更に温泉にも入ることもできました。まるで自宅に戻ったかのように、こんなに親しみやすく距離の近い人のおかげで、私が今海外にいることを忘れてしまうほどでした。

私たちが食べたのは朝食ではありません。それは服部さんの愛でした。

私が特に忘れられないことは服部さん手作りの朝食です。香りや味はもちろん、栄養や健康をも考えたものでした。食べていると何の負荷もかからないだけでなく、服部さんの心配りが味わえました。

翌日の夜、歓迎会が服部さんのもう一棟の民宿で行われました。私が素食者だと知っている服部さんは歓迎会で特別に豪華な素食料理を作ってくれました。寿司、おでん、フレンチポテト、サラダ等です。私は動物系の味にとっても敏感で、少しでもそのような食物が入っていればすぐにわかります。しかしその日の歓迎会で私は予想もしていない上品で美味しいベジタリアン料理を安心して楽しむことができました。料理人が調理の過程で十分に注意してくれたことが感じられ、日本人の食べ物に対するこだわりを再認識できました。日本では素食者人口が少なく、素食料理に不慣れた日本人がこのようなベジタリアンの料理を作られるということは既にとてもすごいことです。服部



さんが私のために美味しい素食料理を作ってくれたこと、本当に感謝しています。ありがとうございました。

随行して下さった郭永興先生、阿部さん、鹿養さんに感謝します。この旅で一緒に喜び、一緒に日本を理解しました。また私たちの安全を常に注意してくれ、私たちが松山空港に到着するまで気が抜けなかったことでしょう。本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。

その他、郭先生にも特にお礼を申し上げます。最終日胃の調子が悪い私に末石さんと一緒に温かい豆乳を部屋まで持って来てくれました。また空港の薬局で胃腸薬を買ってくれたおかげで、飛行機ではずいぶん楽になりました。ありがとうございました。また、阿部さんと鹿養さんが気にかけて下さったことにも感謝します。私はもう大丈夫です。ありがとうございました。

今回の旅行は日本の招待への感謝はもちろんですが、日本人の精神を学べました。それは細かな点まで気づく注意深さと事前の完璧な準備です。おそらくこれらこそが日本が戦後迅速に復興した原因の一つだったと考えます。最終日から数えて二日目東京で行われた懇親会で日本に滞在している台湾政府幹部がこう言っていました。台湾に戻り日本人の完璧な準備を学べば、君たちの訪日は無駄ではなかった、と。

台湾社会に「船到橋頭自然直（意味：その時に

なれば自然とどうにかなる）」という諺があります。どれくらい準備をしても必ず問題が起こる。だから最後の重要な時になってからどのように対処すべきか考えれば良い、と常に思っていました。しかし日本社会の中でこの法則は全く存在しません。彼らはこの法則を全く信じていないのです。事前に全てのことを完璧に行うことこそが責任を負うということであり、他人に迷惑をかけないという表れなのです。

文化の間に優劣はありません。正否の違いもありません。「なんとかなる」という考えは自然と華人の社会の道理に存在しています。しかしもし台湾人が「事前の完璧な準備」を重視すれば多くの資源の浪費を解消できます。それは物質的な資源もあれば社会的資源もありますが、どちらも保護でき、有効に適所へ分配できます。このようにすれば台湾の強さが牽引されるのです。

最後に、この旅行中、東日本大震災の援助によって台湾人が日本で厚遇を受けていることを感じました。私が台湾人と知れば、皆が「感謝」や「台湾と日本は永遠の親友です」などという台湾に友好的な言葉をよく聞きました。もちろん日本人の「建前」というその場限りの言葉なのか、それとも「本音」なのかはわかりませんが、日本が台湾を重視してくれていることに感謝の気持ちでいっぱいです。しかし国際的な現実という障害があり、民間での台湾に対する友好的態度は日台国交正常化に反映されることは難しく、短期内での台湾と日本の国交の再締結を見ることはなさそうです。これは台日関係の残念な点です。しかしこのような状況だからこそ、私はこの難関を突破し、些細な力ですが将来的に貢献をし、日台関係のために新たな局面を作り、今回の日本政府が私たちに対する温かい招待の温情に報いたいと感じるようになりました。どうもありがとうございました。

## コ ラ ム

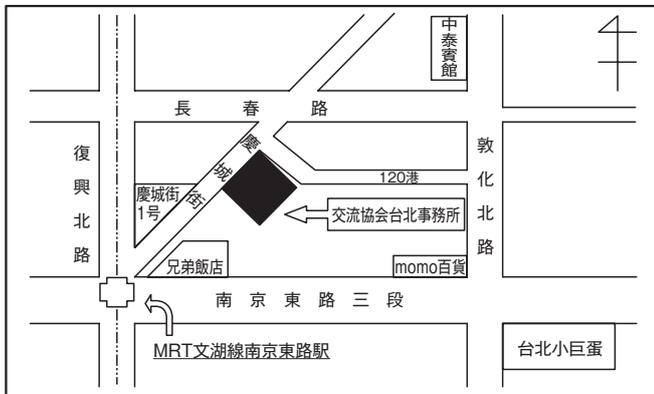
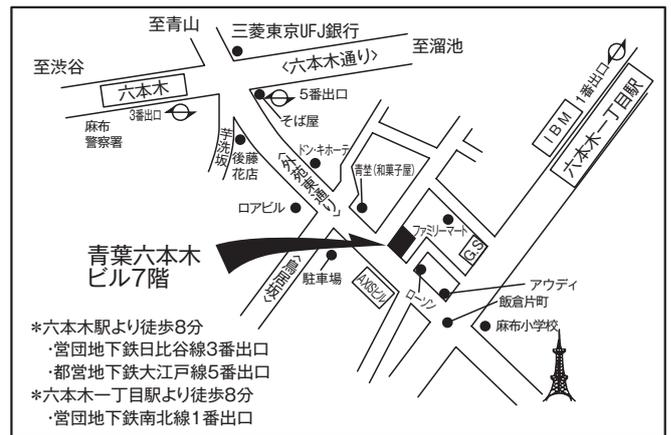
5月に入り、台北では晴れた日でも空気になんとなく水のおいを感じるようになりました。ここから長い長い夏が始まると気分も高まると同時に、カビとの戦いが始まってしまいました。先日、ふとクローゼットにある冬物を整理しようとお気に入りの黒い皮ジャケットを取り出したら背中部分がカビだらけで真っ白。泣く泣く処分する羽目になりました。小さな除湿材は入れていたのですが、台湾の湿度を甘く見ていました（涙）。

これからが夏本番、除湿器をフル稼働で暑さとカビに負けずに乗り切って行きたいと思います。分割払いの一眼レフカメラ用のレンズだけはカビの魔の手から死守しないと！

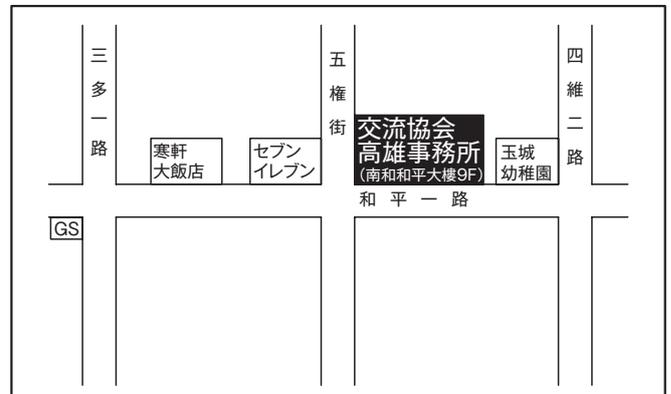
(K.N)

平成27年5月25日 発行  
 編集・発行人 舟町仁志  
 発行所 郵便番号 106-0032  
 東京都港区六本木3丁目16番33号  
 青葉六本木ビル7階  
 公益財団法人 交流協会 総務部  
 電話 (03) 5573-2600  
 F A X (03) 5573-2601  
 U R L <http://www.koryu.or.jp>

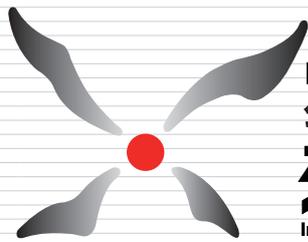
表紙デザイン：株式会社 丸井工文社  
 印刷所：株式会社 丸井工文社



台北事務所 台北市慶城街28號 通泰大樓  
 Tung Tai BLD., 28 Ching Cheng st., Taipei  
 電話 (886) 2-2713-8000  
 F A X (886) 2-2713-8787  
 URL [http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3\\_contents.nsf/Top](http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/Top)



高雄事務所 高雄市苓雅區和平一路87號  
 南和和平大樓9F  
 9F, 87 Hoping 1st. Rd., Lingya Qu, kaohsiung Taiwan  
 電話 (886) 7-771-4008 (代)  
 F A X (886) 2-771-2734  
 URL [http://www.koryu.or.jp/kaohsiung/ez3\\_contents.nsf/Top](http://www.koryu.or.jp/kaohsiung/ez3_contents.nsf/Top)



日本と台湾との架け橋

公益財団法人

**交流協会**

Interchange Association, Japan (IAJ)

